週刊 YEAR BOOK

1977 昭和52年

日録20世紀

10|14
平成9年10月14日発行
(毎週1回発行)第1巻第33号
¥560
講談社

王貞治、本塁打世界新！

「ピンク・レディー」と「キャンディーズ」

「解体」された安宅マン3600人の運命

犠牲者30万人！独裁者・アミンの素顔

過激にデビュー、衝撃的に引退！
嵐のように駆け抜けた2組のアイドル
「ピンク・レディー」「キャンディーズ」現象

▼昭和53年12月31日、ピンク・レディーが歌う「ＵＦＯ」が第20回日本レコード大賞を受賞した。この年のシングル盤のレコード売上総数は534万枚を記録。　日刊スポーツ

昭和五二年、日本中を席巻し、社会現象にまでなった二組の女性アイドルグループがあった。激しい踊りで旋風を巻き起こした「ピンク・レディー」と、等身大のアイドル像が人気を呼んだ「キャンディーズ」。タイプの違う二組のアイドルは人々の心をつかみ、芸能界に新風を吹きこんで嵐のように駆け抜けていった。

作られたキャラクターに徹したピンク・レディー

師走にもかかわらず、一万五〇〇〇人の熱気で日本武道館はピークに達していた。「ケイちゃ～ん」「ミーちゃ～ん」――顔を傾け右手を頬にあてるポーズに、叫び声のような声援を送る男性ファン。父親が娘を肩車して、ステージを見つめる親子の姿もある。

昭和五二年一二月二七日に武道館で行われた「'77年バイバイ・カーニバル」は、ピンク・レディーにとって超多忙の一年を締めくくるコンサートだった。デビュー一年半にして、七本のＣＭに出演。コンサートの観客動員数が約一三万人で、行ったことがないのは沖縄と鹿児島だけ。そうした大物ぶりを証明したのが、"新人では前代未聞"と言われた武道館コンサートだったのだ。

実際、二人は異例ずくめの"怪物"だった。デビュー曲「ペッパー警部」がいきなり一〇五万枚を売り上げ、「Ｓ・Ｏ・Ｓ」や「カルメン'77」など、出す曲、出す曲がミリオンセラーを記録。「福田赳夫総理がニュースに出ない日があってもピンク・レディーがブラウン管に登場し

▶ピンク・レディーの記念すべきデビュー曲となった「ペッパー警部」。
阿久悠作詞・都倉俊一作曲・ビクター・昭和五一年八月二五日発売。

▲ピンク・レディーファンクラブのバッジ。

◀「ＵＦＯ」関連グッズの宇宙ペンダント。ボタンを押すと二人の顔が浮かぶ。
アサヒ玩具発売・昭和53年

◀曲ごとに衣裳と振りが変わるのも魅力だった。写真は「サウスポー」の振り。前がケイ、後がミー。

▶「ペッパー警部」に続く第二作目となった「Ｓ・Ｏ・Ｓ」。
阿久悠作詞・都倉俊一作曲・ビクター・昭和五一年一一月二五日発売。

◀「……あいつはあいつは大変装」のせりふが好評だった「ウォンテッド」。
阿久悠作詞・都倉俊一作曲・ビクター・昭和五二年九月五日発売。

▶おしゃれ人形ピンク・レディー。新曲発売のたびに衣裳を替えて販売された。
アサヒ玩具発売。高さ二九五ミリ・一体の定価二五〇〇円。

▶「サウスポー」。この曲は昭和五三年の第九回日本歌謡大賞を受賞した。
阿久悠作詞・都倉俊一作曲・ビクター・昭和五三年三月二五日発売。

▲コミック調の歌詞の中で微妙な女心を表現した「透明人間」。
阿久悠作詞・都倉俊一作曲・ビクター・昭和五三年九月五日発売。

▶最大のヒット曲となり、昭和五三年の日本レコード大賞を受賞した「ＵＦＯ」。
阿久悠作詞・都倉俊一作曲・ビクター・昭和五二年一二月五日発売。

◀「ＵＦＯ」「サウスポー」とともに昭和五三年に大ヒットした「モンスター」。
阿久悠作詞・都倉俊一作曲・ビクター・昭和五三年六月二五日発売。

◎表紙　この年、ホームラン756号の世界新記録を打ち立てた巨人軍・王貞治選手。　報知新聞社

ない日はない」などとささやかれた。

デュオを組んで高校時代から歌手をめざしていたケイ（増田啓子＝二〇）とミー（根本美鶴代＝一九）は、一世を風靡したオーディション番組の「スター誕生」を機に、昭和五一年八月デビューをはたす。〝ザ・ピーナッツのようなデュオを〟という狙いから、作詞家の阿久悠（四〇）、作曲家の都倉俊一（二九）、振り付けの土居甫（四一）が企画チームを組み、二人を奇抜な曲名とアップテンポなリズム、大胆な振り付けといった仕掛けで歌謡界に送り出した。当初のターゲットは一〇代の男性だったが、デビューから約半年後、ピンク・レディーの二人や仕掛け人たちは〝意外な反応〟にきづく。この頃から、コンサート会場に若い男性ファンにまじって、母親に手を引かれた少女の姿が目立ち始めたからだ。

「歌詞も踊りも当時としては過激で挑発的だったから、〝えっ、あんな幼い子も聞くの？〟と最初は不思議だった」と元ケイの増田恵子さんは言う。

彼女たちの踊りには、「カルメン'77」なら闘鶏、「ペッパー警部」なら逮捕劇というように一曲ごとにモチーフがあった。たとえば後者の場合、映画「ピンクパンサー」がもとになっており、アイドルには珍しい股を広げるポーズも、探偵が犯人を追走する姿を表現している。そうしたストーリー性や、パンチのきいたリズムと歌詞を全身で表現できる新鮮さに、少女たちは虜になる。前奏を聞くだけで体を動かす二、三歳の子ども、競うように振り付けをおぼえる小学生の姿が、茶の間で、公園で、教室で日常化した時、ピンク・レディーは〝ひとつの社会現象〟に化けた。

「あまりにも忙しすぎて、社会現象になった実感はありませんでしたね。ますますキャラクター化していく歌と、〝大人の歌手に脱皮したい〟という本心との葛藤も多少はありました。『ピンク・レディー号』というロケットが宇宙に打ち上げられて皆が大騒ぎしているのに、乗っているはずの私たちは地上でそれを見上げていたような感じかな」と増田さんは率直に振り返る。

キャンディーズは〝元祖バラドル〟

昭和五二年の七月一七日、同じように人気のピークにありながら、突然の解散宣言を行ったのがキャンディーズだ。「九月に解散することになりましたぁ」――日比谷野外音楽堂のステージで、四〇〇〇人の観客を前に声を震わせるラン（伊藤蘭＝二二）に、場内は静まり返った。舞台に泣き崩れるスー（田中好子＝二二）とミキ（藤村美樹＝二一）。衝撃的な解散宣言は、所属事務所にも〝青天の霹靂〟だった。翌日には会見が開かれ、あの流行語にもなった「普通の女の子に戻りたい」発言が飛び出す。

プロデューサーだった酒井政利氏（現・五八歳）は、「人気の頂点にあるスターが突然、引退宣言するなんて前例はなかったので私も驚きました。キャンディーズはランの赤、スーの黄、ミキの青と〝三原色〟が調和したグループで、当時の芸能人には珍しい素人っぽさ、健全さを持っていた。だからこそ、三人で移動し、歌う、鋳型にはめられた生活に疲れきっていたのかもしれません」と話す。

昭和四七年にNHKの歌番組のマスコットガールで芸能界入りした三人に人気の火がつき始めたのは、人気バラエティ番組の「8時だョ！全員集合」に出演してからだ。アイドルがコントを演じることなどなかった時代、ちょび髭をつけ、パイ投げをする〝等身大のアイドル〟は茶の間の共感を呼んだ。歌手としても、昭和五〇年の「年下の男の子」を皮切りに「春一番」「やさしい悪魔」など順調にヒットを飛ばす。

「ファンは〝三色〟から好きなタイプを選び、成長ぶりを翌年四月の引退まで見守り続けました。そういう意味で三人は〝一億総ディレクター時代〟を先駆けたスターだったんです」（酒井氏）

三人の解散宣言は、芸能界にある現象を起こすことになる。ピーク時にやめる衝撃的な引退や引退興行が、山口百恵、都はるみなど、後のアーティストに先鞭をつける形になったからだ。

多くの足跡を残して時代を疾走した二組のアイドルは、よく「本人たち（演技者）を含むプロジェクトチームの仕掛けが勝利をおさめたピンク・レディー」と「まず三人の個性ありきのキャンディーズ」と比較される。

米国進出もはたしたピンク・レディーが「燃え尽きました」という言葉を残して解散したのは昭和五六年三月。その時、普通の少女に戻ったはずのキャンディーズの三人は芸能界に復帰していた。

「あのブームが一体、何だったのか今でもわからないけれど、昨年の再結成で、当時を懐かしむ女性と一緒にリズムをとる子供たちを見て感じたことがあるんです。時空を越えて人の心に訴えかける何かが、ピンク・レディーにはあったのかもしれないって……」（増田さん）

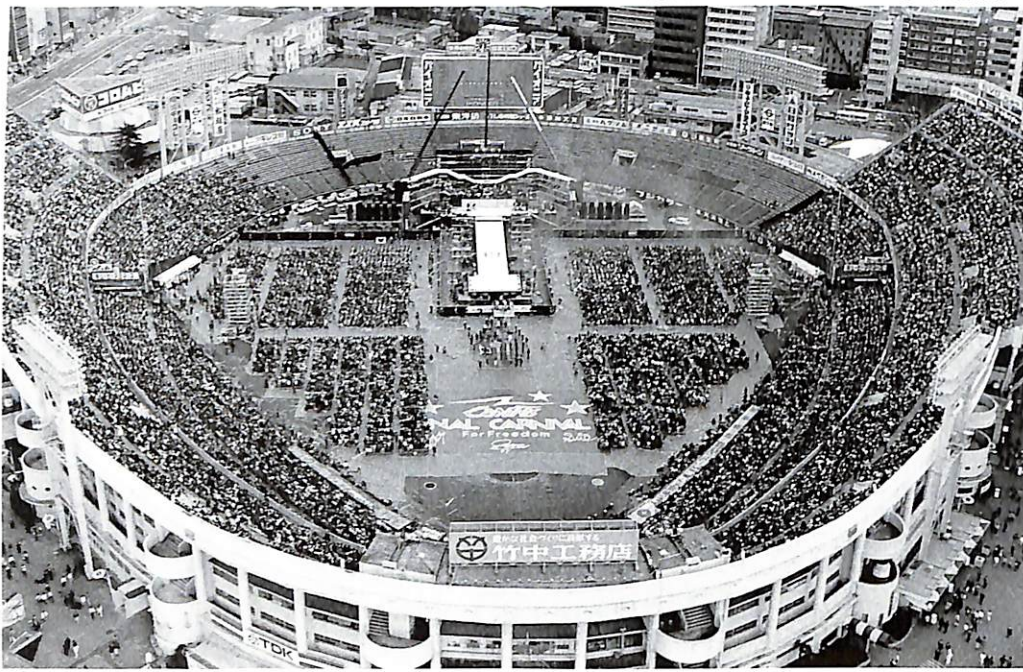
▲昭和53年4月4日、ひとつの時代を駆け抜けたキャンディーズが後楽園球場でさよならコンサート。左からミキ、ラン、スー。 朝日新聞社

過激にデビュー、衝撃的に引退！
嵐のように駆け抜けた2組のアイドル

「ピンク・レディー」「キャンディーズ」現象

▼キャンディーズのさよならコンサートが行われた昭和53年4月4日の後楽園球場。最後は5万人のファンと「微笑がえし」の大合唱。

共同通信社

▶森永製菓がビスケット・セールス・キャンペーンの景品にしたミニトランプ。

2組のおもなレコードと売上枚数

曲名	売上枚数
キャンディーズ	
●「年下の男の子」	26万枚
●「春一番」	36万2000枚
●「やさしい悪魔」	39万枚
●「暑中お見舞い申し上げます」	29万8000枚
●「微笑がえし」	82万9000枚
ピンク・レディー	
●「ペッパー警部」	105万枚
●「S・O・S」	120万枚
●「カルメン'77」	110万枚
●「ウォンテッド」	160万枚
●「UFO」	180万枚

▲キャンディーズの最後の大ヒットとなった「微笑がえし」。
阿木燿子作詞・穂口雄右作曲・CBSソニー・昭和53年2月25日発売。

▲郵政省とのタイアップで発売された「暑中お見舞い申し上げます」。
喜多条忠作詞・佐瀬寿一作曲・CBSソニー・昭和52年6月21日発売。

▲最初はアルバムに入っていた曲で、後にシングルで出された「春一番」。
穂口雄右作詞作曲・CBSソニー・昭和51年3月1日発売。

▲昭和50年、初出場の紅白歌合戦で歌った「年下の男の子」。
千家和也作詞・穂口雄右作曲・CBSソニー・昭和50年2月21日発売。

七五六号は逆風をつき右翼席に突き刺さった
王貞治、「一本足打法」で世界新！

世界の球史にさん然と輝く大記録、王貞治の七五六号ホームランが飛び出したのは、昭和五二年九月三日。後楽園球場での、対ヤクルト二三回戦三回裏のことだった。その日、日本列島はすさまじい熱狂の渦に包まれ、「世界の王」の記念すべき偉業をたたえ合った。

世界記録の七五六号逆風をつき右翼席へ

午後七時一〇分六秒、五万人の大観衆がどよめいた。

三回裏、一死無走者で巨人の王貞治（さだはる）（三七）はこの日二回目の打席に立った。

ヤクルト・鈴木康二朗投手が2―3から投げた第六球目、外角をねらったシュートが真ん中高目に行った瞬間、王のバットが振りおろされ、みごとにボールをとらえた。

白球は快音を残して、六㍍の逆風をつき、一本の糸を引くような弾丸ライナーとなり、わずか四秒で満員の右翼席中段に突き刺さった。

ハンク・アーロンの持つ米大リーグ通算本塁打記録に並ぶ七五五号を放ってから一四打席目、後楽園で国鉄スワローズの村田元一投手から第一号を記録して以来一九年目、入団以来二四二八試合、七八七八打席目の世界新記録達成だった。

▲グラウンドを一周する王選手。電光掲示板に756号の文字が輝く。 読売新聞社

球場は全員総立ちとなった。右翼線審・平光清（ひらこう）の右手がグルグルまわり、王は四、五歩走ったところで、両手を大きく空に広げ、満面に笑みを浮かべながら誇らしげに喜びのポーズをとった。

一塁側三個、三塁側三個、計六個の黄色のくす玉が割られ、一塁側後方からは、大音響とともに花火が打ち上げられた。王は喜びをしっかり味わいながら、一歩一歩大地を踏みしめるようにゆっくりとダイヤモンドを一周、ホーム・ベースの前で待ちかまえた就任三年目の長嶋茂雄監督（四一）とがっちり握手を交わしたのである。

この日、巨人はヤクルトに八対一で快勝、ゲーム終了後も場内の興奮は続いていた。セレモニーが始まると、球場のすべての照明が消え、一人マウンドに上がった王選手に、四方からスポットライトが当たる。センター後方の電光掲示板には〝おめでとう王選手756号〟の文字がくっきりと浮かび上がった。

女優の山本由香利から生花で飾られた記念の盾を贈られた王選手は、マウンドに両親を呼び寄せ感激をともにした後、全国のファンに「このように温かく、熱烈な祝福をいただきまして、私は幸せな男だと思います」と、挨拶、場内には割れんばかりの拍手が轟（とどろ）き渡った。そしてその日の夜、福田赳夫（たけお）首相は王選手の偉業をたたえる異例のメッセージを送り、五日午前一〇時半、日本初の国民栄誉賞

▲アイモ（映画撮影機）がとらえた世界新記録達成の瞬間。それは人並みならぬ努力で開発した一本足打法から生まれた。 読売新聞社

◀756号の世界新記録が生まれた。王選手は両手を広げゆっくりと一塁へ向かう。左はこの大記録をわがことのように喜ぶ張本勲選手。

報知新聞社

▲世界新記録達成から一夜明けた9月4日、王選手の自宅には大勢のファンが押しかけ、祝福した。 読売新聞社

が、首相官邸で王選手に贈られたのである。

別所の一声で決断 ホームラン量産へ

「私は王を一流の打者にする自信がありました。しかし、よくあの猛特訓に耐えられたものです。よく世間では王を天才バッターと言いますが、努力の天才ですよ」

こう語るのは王の師匠、元巨人軍コーチの荒川博である。

「王には長嶋以上の素質がある。鉄は熱いうちに打て」と、荒川がコーチとして巨人軍に招かれたのは昭和三七年、氏が三一歳の時のことである。三四年に入団した王は入団後の三年間、ホームランは通算で三七本、三振二四五個と、打撃成績は低調で、〝三振王〟の異名をとるほどであった。

キャンプから二人の血のにじむような特訓が始まった。剣道や合気道を取り入れた「一本足打法」への改造である。しかし、この打法には、タイミングがはずされやすいという最大の欠点があり、本番で一本足に踏み切ることはなかなかできなかった。

チャンスは突然訪れた。一本足打法が初めてゲームで披露されたのは、昭和三七年七月一日、川崎球場での対大洋戦であった。

「その日、別所毅彦ヘッドコーチに王が打てないから勝てないんだとこっぴどく叱られ、私はもうやけっぱちで王に一本足で打つよう命じたのです」(荒川氏)

師としてはもう少し時間がほしかったが、この歴史的決断を境に王選手のホームラン量産が始まった。稲川誠投手から第一打席ライト前ヒット、そして第二打席目にライトスタンドに一本足第一号を記録、この年五九試合目の第一〇号であった。そして残り七五試合で二八本ものホームランを放ち、通算三八本で初のホームラン王に輝いた。

以後、一三年連続してこのタイトルを独占。昭和五五年のシーズン終了後「精神的にも肉体的にも限界にきた」と現役を引退するまで、三冠王二回、首位打者五回、本塁打王一五回、打点王一三回、最多出塁一二回という数々の偉大な記録を打ち立て、本塁打の記録を八六八本にまで伸ばしたのである。

王は後に「スランプという怪物を退治し、なおかつ技術的に進歩させたのは、練習、練習、それ以外に道はないだろう」(『回想』勁文社)と記している。

まさに努力家・王貞治の面目躍如といったところである。

◀菊の花でボールをかたどった記念の盾を両親にプレゼントする。王選手の目が涙でうるむ。場内からは「親孝行も日本一」の声がとんだ。 日刊スポーツ

女たちの肖像 〝日本美〟にこだわる「マダム・バタフライ」森英恵、パリに進出

稲葉真弓

▲昭和61年、経済同友会初の女性会員となる。

蝶のデザイン、バルセロナ五輪の日本選手のユニホームデザインなどで著名な森英恵(五一)が、パリにオートクチュール(高級注文服)店を開いたのがこの年一月二七日のこと。翌年、東洋人初のパリ・オートクチュール組合会員に選ばれるという快挙をなした。

フランスでは「クチュリエ(ファッションデザイナー)」はアーティストとして権威的な存在だが、森英恵の自伝によれば、当時の日本ではプレタポルテ(高級既製服)とオートクチュールの違いを知る人が少なく、パリでの仕事が評価されるようになったのは、何年か後、欧米でいくつかの賞を得てからのことだったという。それほど日本人は洋服に関して浅い知識しか持っていなかったわけだが、彼女が本場で受け入れられたのは、作品に漂う〝東洋の美〟が評価されたからである。

トレードマークになっている「蝶」も、〝日本美〟へのこだわりと無縁ではない。生地、島根県六日市村(現・六日市町)は、春になるとモンシロチョウが飛びかう田園地帯だった。大正一五年生まれ、開業医の娘として恵まれた少女時代をすごした彼女は、自分の中の日本的な原風景を「蝶」に託したのである。同時に昭和三六年初めてニューヨークで見たオペラ「マダム・バタフライ」の蝶々夫人があまりにも日本の女性とかけ離れていたためショックを受け、「私は蝶が大好きだけれどもこんな蝶はいやだ。絶対に日本と日本女性のイメージを変えてみせる」と決意。四〇年、ニューヨークで「蝶」をテーマにした初コレクションを開いて大成功、森英恵の名は「マダム・バタフライ」として世界的に知られるようになった。

その彼女を陰で支えたのが元海軍主計将校だった夫の森賢である。昭和二四年、東京女子大卒業と同時に結婚した彼女は子育ての合間に洋裁を習い、二六年新宿に「ひよしや」を開店。以後、〝アート〟を〝ビジネス〟にドッキングさせたのは夫の手腕であった。

パリ進出後の活躍はめざましく、昭和六三年紫綬褒章、平成元年にはフランスの文化章レジオン・ドヌール勲章を受章、平成八年には文化勲章を受章した。成功を支えた〝戦友〟の夫は、文化勲章内定の知らせを聞いた直後に病死したが、彼女の戦いはまだ続いている。語録――「私の蝶々は、はかない蝶。壊れやすいけれど意外にしたたか。やがて死ぬけれど、今、生きている」。

勝者・敗者 一日八時間もの猛練習実る 〝ジャンプ〟の佐野稔 日本フィギュア初のメダル

阿部珠樹

演技を終えた佐野稔(二一)は、乱れた呼吸を整えながら、得点表示を待った。出た。技術点、芸術点とも最高に近い五・九がずらりと並んだ。後に演技者は残っていない。三位が決まった。日本人としては初のメダルである。場内には「ミノル」「ミノル」の大歓声が沸き起こった。

この年三月、東京では、アジアで初めてフィギュアスケートの世界選手権大会が開かれた。日本の期待は、〝ジャンプの佐野〟として世界に名を轟かせ、トップテン入りする実力をつけるまでになっていた佐野稔に集中した。

期待を担って登場した佐野は、苦手の規定で六位とまずまずのポジションにつける。続くショートプログラムではひとつ順位を上げて五位。最後のフリー演技の得点次第では、初の入賞に手が届く。

そして、勝負のかかった最後のフリー演技。佐野は跳んだ。三参加選手の中で、ただ一人、三回転ジャンプのうちで最もむずかしいトリプルルッツを決めて波に乗り、フリップ、トゥーループ、サルコーと三回転ジャンプを次々に成功させた。ジャンプの力強さだけを見れば、世界一と言ってもよい会心の出来だった。フリー演技で最高点をマークし、ついに銅メダル。

「三位になる自信は前の日からありました。順位もうれしいけど、自分の納得できる演技だったことが何よりうれしい。両親とコーチに感謝したい」

興奮で頬を赤らめながら、佐野はインタビューに答えた。

山梨県に生まれた佐野は、小学生の時、フィギュアスケートにひかれ、川崎市に転居し、都築章一郎コーチとマンツーマンで一日八時間におよぶ猛練習をこなしジャンプを磨いてきた。最終日の三回転ジャンプは、その一二年間の修練を一気に爆発させたものだった。幼い息子を知人宅に預け、フィギュアの修行を積ませた父親は、「投資の苦労が実った」と言った。もちろん、メダルが金で買えるものではないことは、承知のうえのジョークだったのだろう。

▲昭和47年の全日本選手権で初めて男子シングルスチャンピオンに。5年連続で優勝する。 時事通信社

毎日新聞社

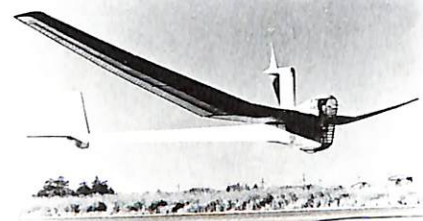
◀**田中角栄元首相、初公判**（1月27日）ロッキード事件「丸紅ルート」5被告の一人として東京地裁に出廷。5億円の献金で全日空へのトライスター売りこみに関与（受託収賄）したとする検察側の起訴事実を全面否認した。

▼**カーター、米大統領に**（1月20日）ワシントンの議事堂前で就任式が行われ、人権の擁護と核兵器廃絶に向けての努力を誓う演説を行った。写真は宣誓後、ロザリン夫人から祝福のキスを受ける大統領。

ロイター・サン／共同通信社

◀**酔っ払い操縦で墜落**（1月13日）アンカレジ空港で日航貨物専用機が離陸に失敗、日本人二人を含む乗員5人全員が死亡。機長の遺体から、多量のアルコールが検出された。

ロイター・サン／共同通信社

▼**ソ連漁船のゴミ不法投棄に抗議**（1月21日）銚子の漁民らが、海から引揚げられたゴミをトラック2台に積んでソ連大使館にデモ。きれいな海を返せと迫った。外務省も26日、抗議を申し入れた。

毎日新聞社

▲**人力飛行世界新**（1月2日）日大理工学部グループが、千葉県の海上自衛隊下総基地でペダルをこいで約2キロ飛翔。機体はバルサ材と和紙が主体。翼長21メートル、重さ37キロ。

◀**具志堅用高、タイトル初防衛**（1月30日）東京の日本武道館で世界Jフライ級選手権戦が行われ、同級2位パナマのリオスに辛勝。後の13連続防衛の日本記録へ第一歩を記した。

共同通信社

読売新聞社

昭和52年1月

1（土）●京都市の梨木（なしのき）神社で消火器爆弾が爆発。
●西武百貨店、幻の蛇「ツチノコ」に懸賞金。
2（日）●日大理工学部が人力飛行二〇九四メートルの世界新。
3（月）●IMF、経済危機の英国に三九億ドル貸し付け。
4（火）●東京の品川駅付近の電話ボックスに置かれた青酸入りコーラを飲んで、二人死亡。
5（水）●九州自然動物公園で日本初のチータの子誕生。
6（木）●ソニー、世界最大の三二インチテレビを発表。
7（金）●ハーエクらチェコの自由派知識人、同国の人権抑圧を暴露する「憲章77」を西側紙に発表。
8（土）●本四連絡橋の尾道（おのみち）－今治結ぶ因島（いんのしま）大橋起工。
9（日）●新幹線が雪で一四日連続ダイヤ混乱の新記録。
10（月）●警視庁、二三年ぶりに覚醒（かくせい）剤取締本部を設置。
11（火）●宮城県女川（おながわ）町漁協、女川原発の計画発表一〇年目にして漁業補償交渉受け入れを決定。
12（水）●沼津市、下水処理に海水を利用する実験開始。
13（木）●前年の企業倒産一万五六四一件、負債総額は二兆二六五七億円で過去最高と判明。
14（金）●小学生のお年玉は一万三七九二円と第一勧銀。
15（土）●新日鐵釜石、早大破り初のラグビー日本一に。
16（日）●東大、観測用ロケットにより初の銀河観測。
17（月）●障害者団体が手塚治虫の漫画はロボトミーを美化と批判、手塚も非を認める、と新聞に。
18（火）●トヨタと日産、前年の自動車生産・輸出台数とも過去最高を記録と発表。
19（水）●阪神、球団設立以来初の黒字計上と発表。
20（木）●ジミー・カーター、米大統領に就任。
21（金）●東京地検、ロッキード事件で小佐野賢治（おさのけんじ）・児玉誉士夫（よしお）を在宅起訴。
22（土）●山形県大蔵村住民、死者一七人出した四九年の山崩れは人災と、国と県に損害賠償（ばいしょう）提訴。
23（日）●お多福産業、「磁気付健康サンダル」を発売。
24（月）●東京国税局、児玉誉士夫の総資産三〇億円を差し押さえ、全面封鎖。
25（火）●正月の海外旅行土産の徴税額が一日当たり一八五〇万円で過去最高、と羽田税関発表。
26（水）●政府、領海を一二カイリに拡大と決定。
27（木）●東京地裁で田中角栄らロッキード事件丸紅ルートの初公判（31日、全日空ルート初公判）。
●森英恵（はなえ）、パリにオートクチュールの店を開店。
28（金）●都立高等保母学院が初めて男性の応募認める。
29（土）●四国初の原発、伊方（いかた）一号炉が臨界に達する。
30（日）●米大統領特使としてモンデール副大統領来日。
31（月）●郵便貯金増加額が都銀上回る、と日銀発表。

ニュース・ファイル 1977

フォト＋日録で再現する365日

円が変動相場制に移行した。景気は依然回復せず、企業の倒産は記録を更新。そんな中、王が世界のホームラン王になり、「ピンク・レディー」と「キャンディーズ」が人気を集めた。一方ロッキード裁判では検察官が元首相の「よっしゃ」発言を暴露、国民を呆然とさせた。

◀**野菜大暴落**（11月15日）好天続きで生産過剰になった野菜が産地にあふれ、全農が白菜を福祉施設などへ寄贈する補償金を農林省に要請したほど。写真は「大根差し上げます」の案内を出した千葉県の農家。

毎日新聞社

▲豪雪と戦う北日本(2月4日)前年12月末からの寒波で3日までに死者31人、家屋倒壊212棟の被害を出した。写真は新潟県上越市で屋根の雪おろしをする市民。

朝日新聞社

宇宙開発事業団提供

▲日本初の静止衛星「きく2号」(2月23日)宇宙開発事業団が種子島宇宙センターから打ち上げた技術試験衛星。3月6日、静止軌道に乗り、気象・通信衛星開発を促進した。

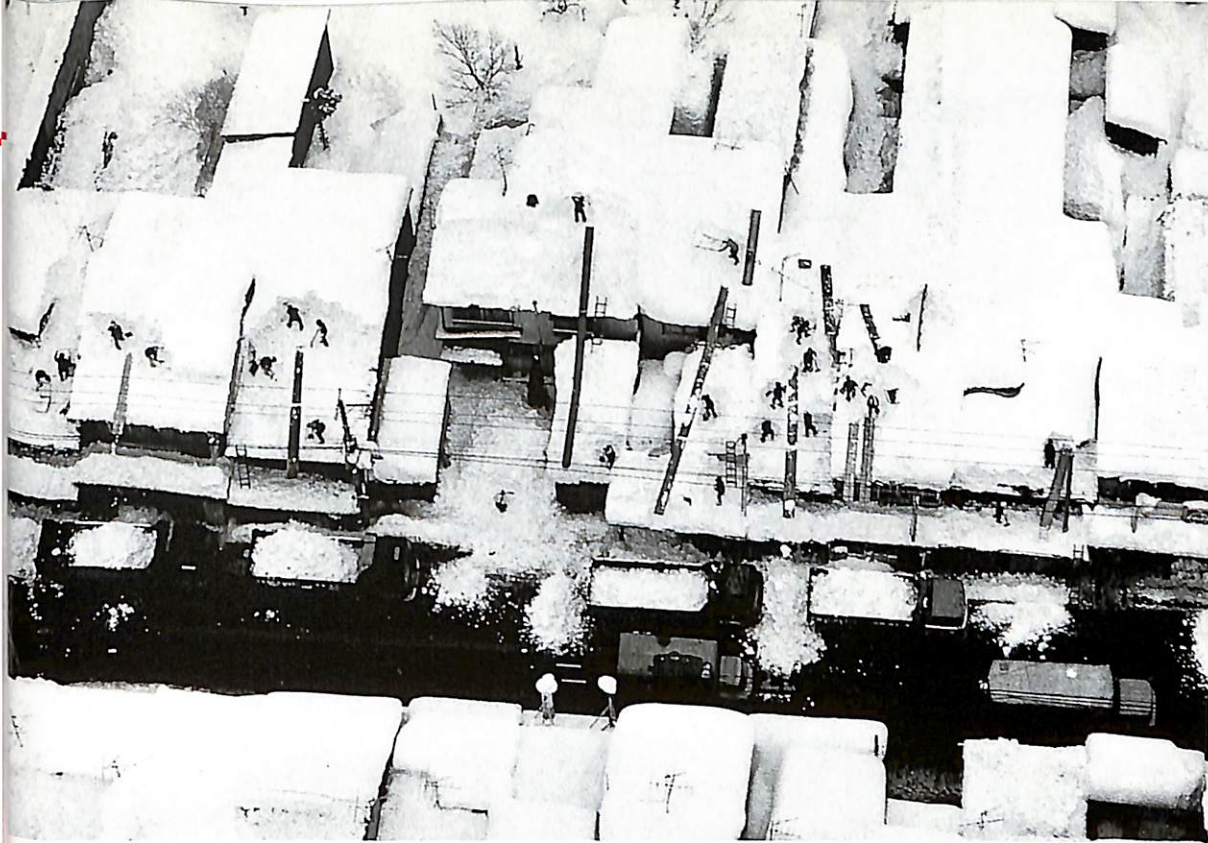
▼竹島の領有権問題、再燃(2月)戦後、韓国が強硬に領有権を主張していた。領海12カイリ拡大で一触即発の事態となりかけたが、鳩山外相が22日、「今は争わぬ」とかわした。

読売新聞社

ロイター・サン/共同通信社

◀火星の衛星、フォボスは隕石だった(2月18日)米航空宇宙局(NASA)が1975年8月に打ち上げた火星探査機「バイキング1号」が鮮明に撮影。フォボスは外部から飛来して火星引力圏内に取りこまれた天体と判明。

朝日新聞社

◀鬼頭史郎判事補、罷免へ(2月1日)三木首相に検事総長の名をかたって電話、ロッキード事件に関する言質をとろうとした事件で、この日弾劾裁判所への訴追が決定され、3月23日に罷免された。

▶首都高速で5人死亡(2月7日)羽田空港への下り車線を時速100キロで走っていた小型トラックが分離帯を越えて反対車線に入り、乗用車と激突、そこに後続のミキサー車が突っこんだ。昭和37年開通以来、最悪の事故。

朝日新聞社

昭和52年2月

1(火)●前年一一月以来、東京・新宿で火曜日に続いた放火事件の容疑者、三四件目で現行犯逮捕。
2(水)●ソニー・東芝・三洋、ベータ方式のVTR統一規格製品を四月から発売と共同発表。
3(木)●年末からの豪雪で東北・北陸で三一人死亡。
4(金)●日本ネクタイ組合連合会、ネクタイ廃止論の石原慎太郎環境庁長官に抗議の声明。
5(土)●EC、日本製ベアリングにダンピング課税。
6(日)●二〇〇カイリ時代控え、スケトウダラが異常高値で加工業者が困惑、と新聞に。
7(月)●インフルエンザ猛威、都内二二〇〇学級閉鎖。
8(火)●美空ひばり、NHKと和解し三年ぶりに出演。
9(水)●元チッソ水俣工場次長、水俣病刑事裁判公判で、猫に発症したデータの隠匿を認める。
10(木)●日米漁業協定調印。初の二〇〇カイリ協定。
11(金)●女性のブーツ流行にかげり、倒産も、と新聞に。
12(土)●富津市鋸山のロープウェーでゴンドラ停止事故。乗客四四人が八時間閉じこめられる。
13(日)●東京・上野動物園で爆弾騒ぎ、三万人が避難。
14(月)●東京駅で男性がチョコレート四〇個を拾い届け出(26日、致死量超す青酸ナトリウム検出)。
15(火)●仙台高裁、弘前大教授夫人殺害事件の再審で真犯人は別人と認定し那須隆に無罪判決。
16(水)●長谷川恒男、マッターホルン北壁の冬季単独登頂に日本人で初めて成功。史上二人目。
17(木)●水戸地裁、百里基地訴訟で自衛隊合憲の判断。
18(金)●遠距離客の六割が航空機利用と全日空調べ。
19(土)●早大ラグビー部、部員の不祥事で一年間公式戦辞退と決定(7月1日解除)。
●「包丁人味平」「釣りキチ三平」などプロ知識満載の漫画が少年に人気、と新聞に。
20(日)●第一一回青梅マラソン参加者が一万人を突破。
21(月)●水俣病患者ら、「ニセ患者がいる」と発言の石原環境庁長官に抗議。
22(火)●三浦雄一郎、南極の二四〇〇メートル峰から滑降。
23(水)●国産初の静止衛星「きく2号」打ち上げ成功。
24(木)●前年の日本列島の土地総価額は四〇五兆円。
25(金)●国産初の戦闘機「F1支援戦闘機」公開。
●予防接種による副作用事故の補償制度施行。
26(土)●通産省、環境アセスメント法案に反対を表明。
27(日)●佐世保市で原子力船「むつ」受け入れ賛否両派が集会。反対派のデモに右翼が突入。
28(月)●小西六、超高感度フィルム「ASA400」を発売と発表。

▲上越線、脱線・転覆(3月8日)群馬県の津久田—岩本間でスキー客で満員の新潟行急行列車「佐渡3号」が大きな落石に激突。1両目が国道に転落、2両目が横転し、一人が死亡、110人が重軽傷を負う惨事となった。

共同通信社

▲北の湖、初の全勝優勝(3月27日)大阪府立体育会館で行われた大相撲春場所千秋楽で、意地を見せる先輩横綱輪島を水入りのすえ吊り出し、8度目の賜杯を手にした。全勝優勝は昭和48年秋場所の輪島以来21場所ぶり。

朝日新聞社

▲プロパンガス爆発(3月12日)早朝、横浜市の6階建てマンション4階で発生、7世帯が炎と煙に包まれた。はしご車を含めた29台の消防車が出動したが、22歳の主婦一人が死亡、8人が重軽傷を負った。

読売新聞社

◀松下電器、「山下跳び」の山下俊彦新社長披露(3月23日)松下幸之助相談役(左)の指名を受け、平取締役から一気に24人を抜き頂点に。57歳。低成長時代のかじ取りを託された。

読売新聞社

▼カナリア諸島でジャンボ機同士が激突(3月27日)滑走中のKLM機にパン・アメリカン機が誘導路から突っこみ、両機とも爆発・炎上した。合わせて575人が死亡、大量輸送時代の航空機事故の恐怖を世界中に伝えた。

◀平戸大橋完成(3月27日)長崎県平戸島と対岸の田平町を結ぶ全長665メートルの吊り橋。4月4日の開通を前に渡りぞめ。これにより平戸は県本土と陸続きとなり離島振興法対象外となった。

朝日新聞社

WWP

昭和52年3月

1(火)●サントリー、麦芽一〇〇パーセントの「メルツェンビール」を首都圏で発売。
2(水)●消費者団体が女子高生への美容講習は業者の宣伝と批判、教委・教組も同意、と新聞に。
3(木)●野村秋介ら新右翼四人が経団連襲撃し籠城。
4(金)●ルーマニアで大地震。首都ブカレスト壊滅。
5(土)●佐野稔、世界フィギュアで日本初の三位入賞。
6(日)●全国原理運動被害者父母の会全国大会開催。
7(月)●群馬テレビが右翼団体の北方領土CM放映。
8(火)●国立近代美術館、米から返還された戦争画一五四点の展示を中止(7月9日、一部公開)。
9(水)●サラ金苦の主婦に売春強要の業者ら逮捕。
●自民党福田派が解散(以後派閥「解散」流行)。
10(木)●名古屋市のパチンコメーカーがテレビつきパチンコ台を開発し、県警に許可要請。
11(金)●文部省、初の「学校外学習実態調査」。都市部では小・中学生の過半が塾通い。
12(土)●在日仏大使館執事を四〇年つとめた高橋利明に仏政府がシュバリエ勲章を授与。
13(日)●神戸市で初の市営地下鉄「西神線」が開業。
14(月)●国税庁、田中角栄に四億六〇〇〇万円追徴。
15(火)●宝酒造、焼酎ブームの火つけ役「純」を発売。
16(水)●インドで総選挙(21日、国民会議派大敗が確定。ガンジー首相も落選し、人民党が政権)。
17(木)●全日空機乗っ取り未遂が二件発生。
18(金)●「東京ディズニーランド」の名称決定。
19(土)●平野前岐阜県知事ら二〇人を贈収賄で起訴。
20(日)●東大入試に初の全盲者、石川准君が合格。
21(月)●カーター米大統領、日米首脳会議で、日本の安保理常任国入りを支援と表明。
22(火)●韓国で民主救国宣言事件により金大中の有罪確定。民主派など、「民主救国憲章」を発表。
23(水)●鬼頭史郎判事補、ニセ電話事件で罷免。
24(木)●宮城教育大で演技や絵を描くなど型破り入試。
25(金)●「遠高狭」で不評の公団新設団地の空き家が、三月末で一万六〇〇〇戸超える、と新聞に。
26(土)●江田三郎、社会党を離党(5月22日死亡)。
27(日)●カナリア諸島のロスロデス空港でジャンボ機同士が衝突。史上最悪の五七五人が死亡。
28(月)●前年の日本人出国者二八五万人と法務省発表。
29(火)●『天下り白書』。前年度は、特殊法人役員の七六・五パーセントが天下り。
30(水)●新幹線に車内広告が登場する、と新聞に。
31(木)●日ソ漁業交渉打ち切り。ソ連内での操業停止。

▲福田首相、英保守党党首サッチャーと会見（4月14日）後に英国首相となる「鉄の女」と談笑。福田首相は翌々年の東京サミットを意識し経済に強いところを見せたが、総裁選に敗れ、出番を失った。

毎日新聞社

岡崎豪

▲アラン・ドロン、フジテレビに出演（4月23日）12年ぶりの来日。「太陽がいっぱい」などで知られるフランスの人気俳優に直接インタビューできる番組とあって、視聴者募集100人に、なんと1万人以上が応募。

▶石原慎太郎環境庁長官、水俣を視察（4月22日）胎児性水俣病患者らに陳謝、救済に全力を尽くすと約束。しかし地元の反応は冷たく、長官も「ニセ患者」「IQの低い人たち」などと発言、物議を醸した。

毎日新聞社

共同通信社

▲リニアモーターカー、相次ぎ公開（4月）14日には日本航空が川崎市の実験場で時速138キロの試走を披露、16日には国鉄が日向市で時速500キロをめざす実験車（写真）を公開した。

共同通信社

▲転覆船から19時間ぶり救出（4月28日）千葉県浦安沖で鋼材運搬船が強風のため転覆、乗組員二人が行方不明になった。翌日、捜索隊の呼びかけに応答があり、船底をカッターで切断して機関長を救出。船長は発見できなかった。

▶エアバス、大阪空港で試験飛行（4月8日）運輸省が騒音、大気汚染などを調査。初日の騒音は予測値を上回ったが、5月には日航ジャンボ、全日空トライスターが定期便として就航。国内線も大量輸送時代に入った。

朝日新聞社

昭和52年4月

1（金）●名古屋の河合塾、東京に進出し駒場校開校。
●悠木千帆、テレビで芸名をセリにかけ二万二〇〇円で売却、新芸名を樹木希林とする。

2（土）●労働省、週休二日制採用企業は四三㌫で三年間横ばい、完全週休二日制は二四㌫と発表。

3（日）●沖縄県石川市で戦時中に米軍が投下した大型不発弾撤去。八〇〇〇人が一時避難。

4（月）●パイオニア、米ワーナー・ケーブル社と共同で双方向CATVの商業化に成功と発表。

5（火）●河野満、世界卓球選手権で中国の郭躍華を破り初優勝。日本の優勝は八年ぶり。

6（水）●電電公社、六四キロビットの超LSIを開発と発表。

7（木）●尾上松緑・坂東玉三郎、「オセロ」を初演。

8（金）●東京で環境保護テーマに日米合同コンサート「ローリング・ココナツ・レビュー」開催。

9（土）●金武湾を守る会、石油備蓄基地差し止め申請。

10（日）●岡本綾子、ワールド・レディス・ゴルフトーナメントで初優勝。

11（月）●二本松市で東北新幹線工事の橋桁が崩落。

12（火）●身障者団体、川崎市で車椅子によるバス乗車を求め実力行使。三五台が運休。

13（水）●中曽根康弘、衆院ロ事件特別委で証人喚問。

14（木）●米、韓国から核ミサイルの撤去開始と発表。

15（金）●総理府発表、前年の平均貯蓄額は三七七万円。

16（土）●S・スタローン主演映画「ロッキー」封切。
●平凡出版（現・マガジンハウス）、月刊「クロワッサン」を創刊。

17（日）●東京の表参道に暴走族数千台、機動隊が出動。

18（月）●地震予知連絡会の東海地域判定会が発足。

19（火）●桜井市メスリ山古墳出土の円筒埴輪が復元、公開される。高さ二・四二㍍で日本最大。

20（水）●修学旅行協会の調べで、前年の修学旅行での飛行機利用者は五万六〇〇〇人、と新聞に。

21（木）●コダック社、インスタントカメラを日本発売。

22（金）●パイオニア、音響製品を米で現地生産と発表。

23（土）●合成洗剤追放運動団体が第一回研究会開催。

24（日）●高速増殖実験炉「常陽」が臨界に達する。

25（月）●日劇ダンシング・チーム、四一年の歴史に幕。

26（火）●中山千夏・青島幸男らが革新自由連合を結成。

27（水）●自民党、外務委で日韓大陸棚協定を強行可決。

28（木）●日本航空、スチュワーデスの制服を一新、ミニ丈からシャネル丈に。

29（金）●山下泰裕、全日本柔道選手権に初優勝。

30（土）●厚生省、米の圧力で柑橘類の防かび剤を承認。

証言・あの日この日
つげ義春（39）

3月12日（土）〈不動産屋の車が迎えに来て、二キロほど離れた多摩川住宅団地へ案内された。……小ぶりの三DKだったが頭金七百九十万で月々一万五千円ほどの残債を先住者から引継ぐという方式のものだった。頭金の大きいのが難点だが、自分のように収入の不安定の者は家賃にいつもおびやかされる。それが月々一万五千円というのは魅力だ。この程度が現実的な物件といえるかもしれない。しかし、頭金を出したら一文なしになってしまう。それはちょっと勇気のいることだ〉（『つげ義春日記』）

生まれたばかりの子どもの泣き声がうるさいと、同じアパートの住人から文句を言われるつげ義春にとって家を持つのは切実な悩みだ。定収入のない身に毎月の家賃4万円は「重苦しい強迫」だ。幸い、今なら旧作の文庫化で「頭金」分の貯金があるのだが……。（坪内祐三）

朝日新聞社

▲ふえ続けるベトナム難民（5月11日）1975年に数百人、この年には1万6000人に達した。写真はシンガポール沖で日本船に救助され、北九州市に到着した79人。すでに施設は満員だった。

▼成田鉄塔を強制撤去（5月6日）空港開港を急ぐ公団が機動隊5000人を動員、反対同盟が建設した2基を倒した。9日までの抗争で双方1名ずつ初めての死者を出した。

▼「オリエント急行」廃止（5月20日）1920年代にはロンドン―イスタンブール間7ヵ国をつないだ夢の大陸横断鉄道も、この頃は赤字続きだった。写真はパリのリヨン駅を出発する最後の便。

CORBIS・BETTMANN／PPS

▶「魚かくし」疑惑（5月13日）写真は冷凍魚の在庫調査をする東京都の係員。200カイリ時代突入で日ソ漁業交渉が難航、水産会社などが値上がりを予想して〝在庫調整〟した。

共同通信社

朝日新聞社

◀ジーパン是非論争（5月11日）大阪大学の米人講師ベーダさん（56）がジーンズ姿の女性の受講を拒否したため、学生たちが女性差別だと抗議、全国的話題となった。講師は結局、日本の行くすえを憂えつつ辞任した。

共同通信社

昭和52年5月

1（日）●総理府人口推計で、戦後生まれが過半数に。

2（月）●国公立共通一次の大学入試センター発足。

3（火）●北海道各地で雪。紋別では積雪三〇㌢を記録。

4（水）●最高裁、全逓中郵事件（33年）で公労法の争議行為一律禁止を合憲とし、逆転の有罪判決。

5（木）●「スーパーカー・世界名車コレクション」開催。

6（金）●空港公団、三里塚反対同盟の鉄塔を強制撤去。

7（土）●福田首相、ロンドン・サミットで経済成長六・七㌫を約束（11月9日、達成困難と表明）。

8（日）●三里塚闘争で機動隊のガス弾直撃受け、反対同盟支援の東山薫重傷（10日死亡）。

9（月）●全運輸省労組、手抜き車検の実態を告発。

10（火）●春の医師国家試験合格率が近年最悪の七七㌫。

11（水）●米、フロンガスを二年後に全面禁止と発表。

12（木）●第一回マイクロ・コンピュータ・ショー開催。

13（金）●為替簡素化で海外旅行持ち出し外貨制限廃止。

14（土）●横須賀市の久里浜病院にアルコール中毒専門病棟が開設。日本のアル中対策の拠点病院に。

15（日）●沖縄反戦地主会、期限切れ土地の返還を申請（18日、地籍明確化法公布し強制使用延長）。

16（月）●恵庭岳には今も札幌五輪の傷跡、樹木の生長遅く、森林復元には一〇〇年かかると新聞に。

17（火）●『観光白書』。海外旅行女性の四四㌫は二〇代。

18（水）●医薬分業率は二・六㌫と厚生省発表。

19（木）●大阪国際空港へのエアバス乗り入れ開始。

20（金）●パリ―イスタンブールのオリエント急行廃止。
●衆院ロッキード事件特別委、証人喚問を三回拒否した児玉誉士夫を最高検に告発。

21（土）●日大歯学部、X線量が従来の一〇〇分の一の歯科用X線装置を開発と発表。

22（日）●中学英語教科書にビートルズ登場、と新聞に。

23（月）●東京六大学で法政が三連覇。江川卓は八勝。

24（火）●慶大商学部で入試問題漏洩の二教授を解職。
●㈱アスキー設立。

25（水）●社会市民連合が全国準備会結成総会を開催。

26（木）●日本へ三一億円不正支払いとロッキード社。

27（金）●日ソ漁業暫定協定調印。

28（土）●賀田恒夫ら、焼き魚などの発癌性は生野菜の汁で消えると日本農芸学会で発表。

29（日）●成田に向かう機動隊車に無線操縦の車が激突。

30（月）●国際看護婦協会大会。八八ヵ国の看護婦参加。

31（火）●カーター米大統領、カストロ・キューバ首相との親書交換を発表。
●伊藤忠商事と安宅産業、合併契約に調印。

▲カンカンとランラン（6月4日）上野動物園のパンダの5年越しの恋がやっと成就。10月末頃の2世誕生が期待されたが、受胎のきざしはあったものの、出産にはいたらなかった。

◀「ねむの木の詩がきこえる」に国際赤十字映画祭特別優秀賞（6月26日）宮城まり子監督・主演。みずから園長をつとめる施設の自閉症児と周囲の交流を、音楽劇風に描いた。写真は羽田で園児の出迎えを受ける宮城。

共同通信社

▲児玉誉士夫、東京地裁初公判に出廷（6月2日）田中元首相逮捕にいたった構造汚職、ロッキード事件の黒幕が1年4ヵ月ぶりに姿を見せた（中央）。しかし、昭和59年に病死、公訴棄却となる。

共同通信社

朝日新聞社

共同通信社

ロイター・サン／共同通信社

▶樋口久子（31）、全米女子プロ制覇（6月12日）米サウスカロライナ州で行われた大会で世界のゴルファーを相手に日本人初の快挙。写真は8番ホールでバーディーを決めて喜ぶ樋口。

◀コレラ・パニック（6月15日）和歌山県有田市で二人の真性コレラ患者が発見され大騒ぎ。写真は16日、路地裏を消毒する市職員。その後、真性患者が23人にも達したが、感染源は不明。

◀マンスフィールド新駐日大使着任（6月7日）長く米上院議員をつとめてきた74歳のベテラン。「日本はアジア外交政策の要」と発言。写真は10日、夫人同伴で宮中に参内した新大使。

昭和52年6月

1（水）●タバコの「マイルドセブン」発売。
2（木）●東京地裁でロッキード事件児玉ルート初公判。
3（金）●余暇開発センター、飲酒行動調査発表。首都圏では二七人に一人がアルコール中毒。
4（土）●東京・荻窪署、この日までに、区役所職員をよそおった消火器販売員らを詐欺容疑で逮捕。
5（日）●東京で全国公害被害者総行動、開催。
6（月）●石川県根上町で町長が七期連続無投票当選。
7（火）●一人の米消費量が一三年で三〇キロ減と農林省。
8（水）●一二都県警、東海大地震想定の災害訓練実施。
9（木）●稲作を推進する会、新潟県の福島潟干拓地で減反に反対し田植えを強行。
10（金）●中教審委員に初めて日教組系の委員任命。
●シャープ、世界初の厚さ五ミリの電卓発売。
11（土）●「北海道新聞」のコラムで「窓際おじさん」の新語が使われる（「窓際族」が流行語に）。
12（日）●樋口久子、全米女子プロゴルフ選手権で優勝。
13（月）●ジーパン・喫煙を理由に解雇された女子社員が岐阜地裁に地位保全の仮処分申請。
14（火）●南硫黄島南東の海底火山を「昭洋海山」と命名。
15（水）●有田市で集団コレラ発生。汚染指定地域に。
16（木）●ソ連共産党書記長ブレジネフ、最高会議幹部会議長に就任。初の国家元首兼任。
17（金）●通産省、マルチ商法が悪質化してきたため全国二二業者名を都道府県に通知。
18（土）●北大路欣也ら出演の映画「八甲田山」封切。
●長良川決壊の被災者、国に一億円の賠償提訴。
19（日）●韓国初の原発「古里一号」が稼働。
20（月）●タイの日系企業で労使紛争相次ぎ、貿易振興会バンコク事務所は交渉決裂で一時休業。
21（火）●いすゞなど四社、五四年騒音規制達成車公開。
22（水）●米亡命中の金炯旭元KCIA部長、金大中事件は当時の李厚洛部長が指揮と米下院で証言。
23（木）●公取委、セメント二一社の不況カルテル認可。
24（金）●豚肉高騰、卸値が一一年ぶりの高値になる。
●前田久美子、モスクワの世界バレエ・コンクールで三位の銅賞獲得。
25（土）●大企業進出から守る中小企業分野調整法公布。
26（日）●宮城まり子監督の「ねむの木の詩がきこえる」が国際赤十字映画祭特別優秀賞を受賞。
27（月）●前年の遠洋漁獲量は七％減と農林省発表。
28（火）●浅草の木馬館、一三年以来の安来節公演に幕。
29（水）●政府、円急騰に対応、黒字減らしに材料備蓄。
30（木）●東南アジア条約機構（SEATO）解散。

20世紀博物館

新冠町レ・コード館
北海道・新冠町

所蔵三五万枚、サラブレッドの町にオープンした“レコード専門館”

桑原茂夫

◀1枚1枚から記憶を呼び起こされそうな、シングル盤ジャケットのコーナー。

LPなどのレコード盤から、一気にCDへ移行するというオーディオ革命が起こりつつあった時、北海道の小さな町が、レコードの収集と保存を町の公的な事業として始め、ついにレコードの博物館まで建設してしまった。

町の名は新冠（にいかっぷ）町。正式に町の事業として発足させたのは、平成三年のことである。新冠町というと、知る人ぞ知るサラブレッドの町で、今でもオグリキャップやナリタブライアンなど、競馬ファンなら忘れられない名馬が、町内の牧場でゆうゆうと暮らしている。

このサラブレッドの町がレコード集めに力を注ぐようになったきっかけは、町内のジャズレコード愛好家によるサークル活動にあった。CD時代に抗してレコードコンサートを開くなど、その積極的な活動は町を刺激し、レコードの収集・保存の意義を認識させることになった。

こうして、平成三年に「レ・コード&音楽による町づくり」がスタート。レとコードの間にわざわざ点を打ったのは、“再び”を意味するレと、ラテン語で“心”を意味するコードを並列させたかったから。つまり“忘れかけていたものをもう一度”という思いをこめた表現なのだという。具体的な構想の方は、博物館建設を含む大胆なものだったが、それだけに、ラジオなどのマスメディアが注目して、全国に伝えてくれた。

これで構想は一気に軌道に乗る。全国津々浦々（つつうらうら）からレコードが集まり始めたのである。

そうなると後へは引けない。博物館建設にも拍車がかかり、平成九年六月八日にオープンとなった。それまでに集まったレコードは三五万枚余り。堂々たる数字だ。しかし、収容能力は六〇万枚、目標は一〇〇万枚というから、まだまだ。博物館自体、リアルタイムで生きていて、これからもたくさんのレコードを貪欲（どんよく）に呑みこもうとしているのだ。

もちろん博物館は、レコードを収集・保存しているだけではない。たとえば、エジソンが発明した最初のレコードに吹きこまれた音楽を聞くことができたり、初めての円盤型レコードに彫りこまれた「ベルリーナ・グラモフォン」のレーベルや、「パテ」「シンフォニー」「東京れこをど」といった、今ではめったに見られない歴史的なレーベルを、間近に見ることもできる。

かと思うと、一九七〇年代、八〇年代の懐かしいシングル盤のジャケットや、芸術作品としても価値の高いLP盤のジャケットなどが、ずらりと並ぶコーナーもあって、じっくり見るほど、自分なりの掘り出し物に出合える楽しさもある。

なおこの建物には、博物館のほかにも、レコード鑑賞専用のホールやリスニングルーム、図書館などが備わっていて、まさに、レコード情報受発信基地の趣がある。サラブレッドの町にレコード専門館、なかなか洒落（しゃれ）ているではないか。

▼レコード針の数々。レコード愛好家から寄せられたレコード針のケースには、まだ使われていない針も残っている。

▲明治時代に使われていた蓄音機。1904年、イギリス・グラモフォン社製作のもので、ラッパはオーク材でできている。背景は当時の合唱シーン。

▲6000平方メートル余の広さを持つ建物は、レコードのターンテーブルをイメージして建てられた。中央は展望タワー。

●新冠町レ・コード館
北海道新冠郡新冠町字中央町一－四
☎〇一四六四－五－七八三三
JR日高本線新冠駅下車、徒歩五分
開館時間＝一〇時～一七時
休館日＝月曜日（祝日と重なる時は翌日）、年末年始。
入館料＝一般八〇〇円

ベストセラー

“確かなもの”を求めた時代 世界中で話題騒然『ルーツ』

画家・池田満寿夫の小説『エーゲ海に捧ぐ』が売れた。この作品は文芸誌「野性時代」に発表され同誌新人文学賞を受賞、次いで芥川賞を受賞し、話題を呼んでいた。サンフランシスコのスタジオで、外国人の恋人と、彼女を撮影する女性が織りなすエロチックなシーンを目にしながら、東京の妻からの長い電話を聞く“私”という設定で、視覚的な要素を強く感じさせた。作者自身は、外国にいて「いつも頭の中が言葉でいっぱいになって……日本語で何か書かずにおれなくなった」と記している。あふれる言葉と、画家の目がひとつになった作品だった。

またこの年、珍しく翻訳本がベストテンに進出した。世界的なベストセラー、アレックス・ヘイリーの『ルーツ』だ。黒人である自分のルーツをたずねてアフリカへ渡るなど、一二年間かけて書かれたこの物語は、アメリカでテレビドラマ化され、話題騒然。日本でも一〇月にテレビ放映され評判になった。

物語は一七五〇年、西アフリカのある村でクンタという少年が生まれたところから始まる。クンタの祖父は村を飢饉から救った聖者であり、クンタはその誇りを忘れない。やがて暴力的に拉致され奴隷の身となっても、白人に屈することなく闘いを挑んだクンタの物語は、黒人差別の無意味さを根底から明らかにした。

何かを確かめるという意味では『間違いだらけのクルマ選び』も、時代の雰囲気を反映させたベストセラーだった。ひたすら成長してきた自動車産業とクルマ社会の中で、著者の徳大寺有恒は、初めてユーザー側に立った本格的自動車評論を成立させた。この後も、改訂のたびにベストセラーに名をつらねている。

●昭和52年のベストセラー

順位	書名(著者/出版社)
1位	『間違いだらけのクルマ選び(正・続)』(徳大寺有恒/草思社)
2位	『頭のいい銀行利用法』(野末陳平/青春出版社)
3位	『八甲田山死の彷徨』(新田次郎/新潮社)
4位	『随筆人間革命』(池田大作/聖教新聞社)
5位	『知的生活の方法』(渡部昇一/講談社)
6位	『人間の証明』(森村誠一/光文社)
7位	『エーゲ海に捧ぐ』(池田満寿夫/角川書店)
8位	『頭の体操(5)』(多湖輝/光文社)
9位	『ルーツ(上・下)』(A・ヘイリー/社会思想社)
10位	『事故のてんまつ』(臼井吉見/筑摩書房)

全国出版協会出版科学研究所

▲『間違いだらけのクルマ選び』(800円)

▲『エーゲ海に捧ぐ』(940円)

▲『ルーツ』(上下各1200円)

スターと名場面

“天は我らを見放した”が評判 遭難の実態を描く「八甲田山」

テレビCMで“天は我らを見放した”というせりふが繰り返され評判になった映画「八甲田山」(森谷司郎監督)は、明治三五年に実際に起こった雪中行軍中の遭難を題材にしたもの。大隊長(三国連太郎)が中隊長(北大路欣也)の指揮に介入して結局は遭難した部隊と、高倉健演じる中隊長を中心に少数精鋭で挑み成功した部隊とを、対照的に描き出し、その悲劇の実態を浮き彫りにした。

同じ雪でも、生活実感につながる雪を背景にした「竹山ひとり旅」もこの年の映画。新藤兼人監督が、津軽三味線の高橋竹山の実像と、そこにいたる生涯のドラマを重ねて見せた。門付け芸人の旅から旅への厳しい現実が、地図をたどりながら描かれた。同じ年、山田洋次監督が撮った、ピート・ハミル原作の「幸福の黄色いハンカチ」もまた、主役たちが地図をたどりながら移動するロードムービーだった。網走刑務所を出所したばかりの男(高倉健)と、行きずりの若い男女(武田鉄矢と桃井かおり)との交流が、次第に深まり、クライマックスの感動的シーンに向かっていく。

この年はほかに次のような作品が公開された。かっこ内はおもな出演者。「はなれ瞽女おりん」(岩下志麻)/「宇宙戦艦ヤマト」/「ロッキー」(シルベスター・スタローン)/「ネットワーク」(フェイ・ダナウェイ)

東宝提供

▲「八甲田山」から。ひとかたまりになって寒さをしのごうとするが、ばたばたと倒れていくシーン。

松竹提供

▶「幸福の黄色いハンカチ」のラストシーン。自分を待っていた妻(倍賞千恵子)に駆け寄る男(高倉健)。頭上には黄色いハンカチがはためく。

▼「竹山ひとり旅」の竹山(林隆三)とその母(左・乙羽信子)、妻(右・倍賞美津子)。

近代映画協会提供

モノ語り'77

手作り感覚と健康志向が受けた「プリントゴッコ」「磁気付健康サンダル」「ふとん乾燥機」

◀1本で多様な使い方ができる筆記具　ボールペンで知られるゼブラが、シャープペンシル兼用のボールペン「シャーボ」を発売した。1本2000円と比較的高価だったが、右にまわせばシャープペンシル、左にまわせばボールペンというアイディアが文具好きにも受けて、人気を呼んだ。

▲印刷を身近なものにした画期的商品　家庭でカラフルな年賀状が印刷できるという、簡易製版・印刷機「プリントゴッコ」が理想科学工業から発売された。1セット9800円と、年賀状グッズとしては高価だったが、その手作り感覚と、出来映えのよさが受けてヒット、超ロングセラーになった。文具店や百貨店での店頭デモンストレーションも絶大な効果を生んで、今や年末年始の定番商品と目されるようにさえなった。

▼健康は足元から　健康グッズの定番ともなった「磁気付健康サンダル」が、この年、お多福産業から1足1500円で発売された。中底にセットされた数個の永久磁石が磁力線を生み、それが足裏のツボを刺激する。それとともに、同社が独自に研究開発して作り出した表面の凹凸が、青竹踏みと同じように足裏を指圧することになるというもの。立ちづめの仕事の人などに愛用された。

▲タバコはマイルド志向に　日本専売公社(現・日本たばこ産業)は、当時ベストセラーだったセブンスターの姉妹品として、ニコチンやタールの量を少なくした「マイルドセブン」をこの年発売した。20本入り150円。セブンスターのマイルド・バージョンだったが、翌年にはセブンスターを抜いて売上本数ナンバーワンとなり、今に続いている。

▼生ビールの樽が買えるようになった　家庭でもビヤホールの生を望む声が高まる中、アサヒビールが、樽生に似せたワンウェイの小型容器を開発して売り出した「アサヒ生ビール　ミニ樽」が大ヒット。軽金属会社との共同研究で、航空力学を応用したアルミの耐圧容器を開発、7リットルの生ビールを入れることに成功した。注出器には手軽なミニサーバーを採用、ビヤホール気分を味わわせた。3100円。

◀焼酎のイメージを一新した焼酎　焼酎というと、安くて悪酔いしやすい酒という、マイナスイメージがまだ根強かった頃に、宝酒造が開発し発売した「純」が、飲みやすくおいしい酒として評判になりよく売れた。大麦を原料とする原酒を甲類焼酎にブレンドし、特殊な活性炭で濾過する技法から生まれた。720ミリリットル580円という価格も新しい需要を喚起した。

▲ふとん干しの重労働から解放　電気によってふとんを乾燥させる「ふとん乾燥機」が三菱電機から1台2万2800円で発売され、主婦層に大歓迎された。掛けぶとんと敷きぶとんとの間にエアーマットをはさみ、そこに送りこまれた温風が、ふとん綿を温め乾燥させるというもの。日当たりがよい家ばかりとは限らない、厳しい住宅事情も反映して、発売初年度で販売台数175万台という大ヒット商品となった。

人物クローズアップ

山下泰裕（一九）

僅差ながら史上最年少優勝 全日本九連覇へスタート！

全日本柔道選手権大会は、毎年四月二九日に行われる。昭和五二年の大会は、上村春樹（二六）、遠藤純男（二六）、高木長之助（二八）の社会人三人と、東海大学二年生の山下泰裕の四人が、〝四強〟として下馬評が高く、このうちの誰かが優勝するものと予想されていた。東京予選に優勝してシードされた山下は最初から好調だった。準々決勝まではすべて一本勝ちで勝ち上がり、準決勝では、それまで勝ったことのない高木を「有効」で破った。決勝の相手は前年の優勝者で二連覇をねらう遠藤純男である。

試合は激しい組み手争いから始まった。両者は互いに譲らず、後半に入っても決め手がないまま、終了のブザーが鳴った。勝敗は僅差だった。副審の旗が紅白に分かれ、そして、主審の手がさっと山下に上がった。優勝の瞬間だった。その時、山下は十九歳と一一ヵ月。昭和三四年に、猪熊功が二一歳で優勝した記録を更新する、史上最年少の記録だった。以降、山下は同大会九連覇への道をつき進む。

山下泰裕は、昭和三二年六月一日、熊本県上益城郡矢部町浜町生まれ。柔道を始めるようになったのは小学校三年生の時からだった。六年生になると、まわりに敵がいなくなった。

そんな山下の運命を決定したのが、熊本市立藤園中学柔道部監督の白石礼介との出合いだった。大きな身体に似合わず動きの軽い山下を見て、白石は「ものになる」と直感したという。藤園中学に入学した山下は、白石の指導でめきめきと力をつけていった。中学二年になると、山下の名は九州の柔道界に知れ渡るようになった。四八年、熊本市の九州学院高校に入学。そして、一年生でいきなりインターハイの重量級に優勝した。

二年生の時、山下に大きな転機が訪れる。それは、神奈川県の東海大相模高校への転入だった。翌年、山下は高校三年生で全日本選手権に出場し、三位になった。小さい頃から、〝怪童〟〝大器〟と言われながら、結局はものにならずに、未完の大器で終わってしまう人は多い。ほとんどが周囲の期待に押しつぶされてしまうのである。しかし、山下はそれとはまったく違う存在だった。そのスケールの大きさに、山下の師である佐藤宣践は、ただ驚くばかりだった。そして、その大きさがいかんなく発揮されたのが、昭和五九年のロサンゼルス・オリンピックにおける優勝だった。

「もちろんプレッシャーは誰にでもあります。だから、私はプレッシャーとは戦わずに、受け入れるようにしています。そして内部から気力を高めていく」

外から見ているかぎり、試合にのぞんだ山下はいつもリラックスしているように見える。

「それは違います。最初からリラックスしていたら勝負になりません。自分の試合を後からビデオで見て、リラックスしているように見えるのが理想的だと思います。五二年の時も、オリンピックの時も、そのように見えましたね」

と山下は語る。

山下の記録は、昭和五二年一〇月から、引退する六〇年六月まで二〇三連勝。中学時代からの成績は、五二八勝一六敗一五引き分けで、勝率はなんと九割七分一厘である。現在、東海大学教授、そして全日本男子監督をつとめる。

▲昭和59年、ロサンゼルス・オリンピックの無差別級で、エジプトのラシュワン(写真右)を破り金メダル。 共同通信社

▲昭和52年4月29日、全日本で初優勝した山下選手。翌年は高木長之助、54～56年遠藤純男、57年松井勲、58～60年斉藤仁をくだして全日本9連覇を達成する。 日刊スポーツ

決定的瞬間

ニュージーランド沖で発見！カラー写真四枚に撮られた“ニュー・ネッシー”の正体

その日はよく晴れて、海はべた凪の状態だった。昭和五二年四月二五日、午前一〇時四〇分。大洋漁業（現・マルハ）のトロール漁船「瑞洋丸」（船長・田中昭）は、ニュージーランドのクライストチャーチ沖五五・五キロの領域で操業中、全長一〇メートルにもおよぶ動物の死骸を引き上げた。

船尾で作業をしていた甲板長は、マイクでブリッジにいた船長に「クジラの死骸が引っかかってきたんですが……」と報告。関係者がマスコミに語った記録を総合すると、その時の船の模様は次のようになる。

死骸からは悪臭が漂い、溶けた脂肪がしたたり、糸を引きながら甲板に流れ落ちる。ほかの魚に汁がまざってはいけないと、甲板中央のウインチ前にいったん置き、網にかかったソコダラなどの処理を行った。

一時間後、作業が終わってひと息ついた乗組員たちはあらためて死骸を見た。全長約一〇メートル。首の長さは一・五メートル。背骨付近に赤黒い肉がついている。一体、何なのだろう、クジラか、巨大な亀か。何人かの甲板員は「漫画に出てくる怪獣に似ている」とも言った。船長は衛生管理上、この死骸を投棄することにした。

投棄する前にトロール部製造課課長代理・矢野道彦氏（三九）は写真を撮り、詳細なスケッチをした。撮影した写真はカラーフィルムで四枚。

六月一〇日に「瑞洋丸」から一人下船した矢野氏は、フィルムと怪獣の“ひげ”（角質鰭条）を東京に持ち帰った。写真を現像して仲間に見せると「なんだこれは？」と議論百出、「専門家にお見せしろ」ということに。東京水産大学教授・安田富士郎氏のもとに持ちこまれた。

七月二〇日「海の日」。奇しくもこの日に矢野氏の持ち帰った写真と情報が「朝日新聞」「サンケイ新聞」にスクープされ、日本中が一気に“ニュー・ネッシー”の話題で沸き返る。矢野氏は二〇日から三日間でテレビ出演四回、共同記者会見四回、座談会二回というスケジュールをこなさなければならなかったほどだ。

誰もが思ったことは、この死骸が首長竜（プレシオサウルス）ではないか、ということだ。首長竜は中生代ジュラ紀（約一億八〇〇〇万年前）に繁栄し、白亜紀（約七〇〇〇万年前）に絶滅した海生の爬虫類である。それが生きていたということになると、大変な大発見だ。一九三八年に発見されたシーラカンス（七〇〇〇万年前に絶滅したと信じられていた）の発見以来ということになるだろう。

“南海の怪獣”“ニュー・ネッシー”とはやされたこの死骸は、科学者たちの興味を引いた。“ひげ”（角質鰭条）のアミノ酸組成の分析を行った安田教授（前出）の提案で、佐々木忠義（東京水産大学）、神谷敏郎（東京大学医学部）、阿部宗明（伊藤魚学研究振興財団）各氏のほか、死体解剖、家畜解剖、鯨学、古生物などの学者一四名が結集してこの献体（死骸）の検討が行われた。結論は日仏海洋学会に発表することとして、同年九月に中間発表がなされた。しかしその内容は「“ひげ”の組成はウバザメに近いが、古代の爬虫類である可能性も完全には否定できない」という慎重なものであった。

四枚の写真は「七〇〇〇万年前の古代恐竜が存在するかもしれない」というロマンを茶の間に残し、謎の“怪獣”は謎のまま広大な海に帰っていったのだ。

▲昭和52年4月25日に発見された“怪獣”。この年9月19日、東京水産大学で開かれた「怪獣問題討論会」では、“怪獣”の角質成分を分析し、化学成分はウバザメにきわめてよく一致するという報告もされている。 矢野道彦 共同通信社

◀日劇ダンシング・チームの最後の公演「ボンジュール・パリ」より、日劇ロケット・ビューティーズのライン・ダンス。

共同通信社

美の出会い

四一年間の歴史に幕！ 日劇ダンシング・チーム 涙いっぱいの最終公演

東京・有楽町の日劇ダンシング・チーム（NDT）によるレビューが、昭和五二年四月二五日、四一年にわたる歴史の幕を閉じた。二月五日から始まった最終公演はパリのムーラン・ルージュからドリス・ガールズを迎えた「ボンジュール・パリ」。迫力ある本場のフレンチ・カンカンや巧みなヌードショーを見せる外国勢に対抗意識を燃やしてか、NDTはそれに劣らぬ熱気あふれるダンスを披露した。

最後の日劇レビューを見ようと、劇場は詰めかけたファンで超満員になり、立見も出るほど。場面が変わるたびに拍手が沸き起こり、「西川さーん」「真島さーん」という声援が飛びかった。ダンサーは涙をボロボロ流しながら踊り、ファンも涙いっぱいのフィナーレとなった。

「本当に日劇レビューは終わってしまうのか、半信半疑でした。ダンサーたちもまったく同じ気持ちだったでしょう」

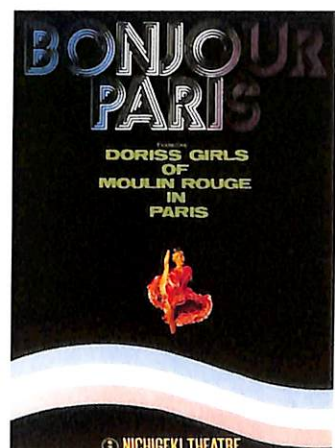
演劇ジャーナリストの橋本与志夫氏は、二〇年後の今も日劇ダンシング・チームの解散を惜しんでいる。

ダンサーたちが「日劇レビュー公演打ち切り」の決定を知ったのは三月三一日の開演前のことで、まったく寝耳に水の話だった。次いで翌四月一日、東宝専務取締役の雨宮恒之から「レビューからミュージカルへ路線変更する」むねの一文が公表された。突然の通達に驚いた西川純代、真島茂樹らNDT所属のダンサー五八名は、「レビューの灯を消さないでほしい」と東宝に嘆願書を提出。これに対し東宝は「NDTの解散はない」と明言したが、レビューの継続は約束されなかった。

◀本場パリの「ムーラン・ルージュ」からやって来たドリス・ガールズの妖艶なショー。

東宝提供

◀日劇ダンシング・チーム最後の公演となった「ボンジュール・パリ」のプログラム。

東宝提供

日劇レビューは昭和一一年、当時東宝の取締役・支配人だった秦豊吉により創設され、当初は東宝ダンシング・チームと呼ばれていた。第一回公演は「ジャズとダンス」。選ばれた肉体美の女性たちによる一糸乱れぬライン・ダンスは、演劇評論家の飯島正らに「元気良く足並みをそろえて舞台を蹴っているのは、非常に心強い」と好評をもって迎えられた。

公演を重ねるうちに、宝塚には見られぬ成熟した大人のエロティシズムを醸し出す華やかな日劇レビューは、有楽町名物となる。しかし、その陰には今でも語りぐさとなっている厳しい練習があった。棒や箒のムチが飛ぶ様子は、「軍隊よりも厳しい」と言われた。

終戦の前後、約一年ほどの休演期間があったが、昭和二〇年の秋にはいち早く復活。活気あふれる激しいダンスは、長い戦争に疲れはてた人々の心を、明るい気分で満たしてくれた。昭和三〇年代には全盛期を迎える。団員も三〇〇名を超えて、ロンドンなどの海外公演も行った。

しかし、昭和四〇年代に入ると、海外のミュージック・ホール閉鎖のニュースも伝えられるようになり、日劇の観客動員数も落ちてきた。

「カラーテレビの影響が大きくなり、舞台もテレビの後追いになってしまったからでしょう。企画の貧困、大物プロデューサー不在などの理由もあげられますが、時代の流れだったのでしょうね」

橋本氏は、松竹や宝塚とは違った東宝の時代を現出させた舞台作りを評価しながらも、NDTの魅力を生かしきれなかったことを歯がゆく思う。

路線変更した日劇は、その後、歌手のビッグショーなどを行っていたが、昭和五六年三月、日劇ビルの解体が決まり、日劇自体も最後を迎える。東宝は一月二五日から二月一五日まで「サヨナラ日劇フェスティバル　ああ栄光の半世紀」の公演を決定。散り散りに活動していたNDTの現役メンバー二九名のほか、退団したメンバーも動員し約五〇名のダンサーによるグランド・レビューが実現する。

「ダンシング・チームのメンバーも、ファンも、東宝自身にとっても、きちんとした最終公演が持てて、本当によかった」と橋本氏は語る。ちなみに松竹歌劇団は翌五七年、国際劇場で最終公演を行う。

戦前から日劇レビューの大ファンだった橋本氏は、平成八年に『日劇レビュー史』（三一書房刊）を刊行し、NDTメンバーに惜別の辞を贈っている。

サラリーマンに〝冬の時代〟到来!
「解体」され、伊藤忠に吸収合併された
名門・安宅マン3600人の運命

◀昭和51年8月18日、上部団体の全商社とともに、合併反対を掲げて伊藤忠本社にデモをかける安宅労組。大阪・御堂筋で。
日本経済新聞社

多額の負債を抱えた名門商社・安宅産業が、この年、伊藤忠商事に吸収合併され、七三年の歴史の幕を閉じた。オイル・ショックの直撃で、構造変動を強いられた〝日本株式会社〟のサラリーマンにとって、いよいよつらく厳しい時代に突入したことを覚悟させる事件だった。

うつろな「万歳」が流れた安宅の〝解散パーティー〟

「安宅(あたか)産業バンザーイッ」「化学品本部万歳!」「大塚本部長万歳!」

日本株式会社の中枢(ちゅうすう)である東京・大手町のビルの四階から、一〇〇人余りのビジネスマンやOLの声が流れていた。だが、その声には「万歳」につきものの、何かしら華やいだ、弾(はず)みがまったく感じられず、異様な雰囲気に包まれていた。「万歳」の声がみな、涙声なのだった。OLは誰もがハンカチを目にあて、男たちも目をうるませていた。机の上には、

▲品川プリンスホテルの近く、檜垣君がコーラを拾った電話ボックス(右の地図❶)は今も残っている。右の地図で❷❸も毒入りコーラ発見場所。❷は電話ボックスのそば、❸は赤電話の下。 奥村健太郎

「現場」を歩く 品川

誰が〝青酸入りコーラ〟を電話ボックスに置いたのか

山本徹美

昭和五二年一月四日早朝、東京・港区で青酸ナトリウムを混入したコーラによる毒殺事件が連続して発生した。

最初の犠牲者は檜垣明(ひがきあきら)君(一六)。京都府立洛東(らくとう)高校一年生だった彼は冬休みを利用し、新幹線車内食堂でボーイとして働いていた。三日午後一一時二四分に勤務を終え、同僚六人と山手線で品川駅へ。そこから徒歩で寮のある高輪(たかなわ)四丁目に向かって南下中、電話ボックス内にころがっていたコカ・コーラを見つける。彼はコーラを寮に持ち帰り、入浴後、ひと口含んだとたん、「腐ってる」と吐き出した。その直後、意識不明となり病院に運ばれたが、午前七時半頃死亡。

もう一人の被害者は菅原博(すがわらひろし)氏(四六)で、グレーの作業着を着たまま路上で死亡していた。当初は行き倒れかと思われたが、解剖の結果青酸反応が検出され、中毒死と判明。檜垣君がコーラを拾った場所から北へ六〇〇㍍の場所にある電話ボックスのそばにコーラの王冠が落ちていて、それにも青酸反応が認められた。

所轄(しょかつ)の高輪署などが調べたところ、毒入りコーラは北品川一丁目にある商店前赤電話の下でもう一本発見されたが、こちらは手つかずだった。

何のための無差別殺人か

警視庁捜査一課は高輪署に特捜本部を設置、捜査にあたったが、犯人検挙はならず平成五年一月時効、捜査は完全に打ち切られたのである。

犯人は一体、何のために、このような無差別殺人を試みたのか。どうして逮捕できなかったのか、高輪署で訊(き)いた。

「あの犯行は通り魔と同様で、動機がはっきりとしない。痴情怨恨(ちじょうえんこん)が原因であれば人間関係をさぐれば、犯人にたどりつけるのですが。それと毒を用いる手口は、非力なものにも可能で、犯人像は女性から少年を含め対象範囲がかなり広がる。それらが捜査を難航させた要因でしょう」

純粋に人殺しのみを目的として、毒をばらまくなど、殺人鬼でなければできる行為ではない。ところが、それが最も捜査のむずかしい犯罪だとすると、なんとも不気味で、背筋が寒くなる……。

現場を歩いてみた。北品川一丁目の発見場所には七階建てのマンションが建ち、商店も赤電話もなかった。そこから線路を渡り、第一京浜国道沿いに北上する。

檜垣君がコーラを拾った電話ボックスは昔のまま残っていた。ドアには風俗関係のシール張りや、変造テレホンカードの使用を禁じる張り紙がしてある。菅原氏の殺害現場は、電話ボックスが郵便ポストに代わっていた。そのはす向かいでかつて駄菓子屋を開いていた福田フクエさん(現・七八歳)に事件当時を思い出してもらう。

「お正月休みでどこも戸を閉めて、幕を引いちゃってるでしょ。だから誰も外なんか見ていないのよ。事件後、飲みかけのコーラ瓶が店先に置いてあったりしたけど、私は全部捨てていました」

犯人は今もどこかで息をひそめ、誰かの生命をねらっているのだろうか。

共同通信社
▲毒入りコーラがあった電話ボックス。事件直後。

会社から配られた男子社員一人当たり酒一合、女子社員一人分のジュース一本、和菓子二個がぽつんと置かれていた。

昭和五二年九月二九日夜のことである。安宅産業東京本社ではこの日、各事業本部ごとに「解散パーティー」が行われていた。大阪本社や全国の営業拠点でも、同様であった。

そしてこの日を最後に、明治三七年に安宅商店として創業して以来、七三年におよぶ歴史を誇る名門商社、安宅産業は伊藤忠商事と合併し、その歴史の幕を閉じた。だが、「合併」とは名ばかりで、実質的には伊藤忠による「吸収」だった。安宅社員三六〇〇人のうち、伊藤忠に合流しえたのは一〇〇〇名をわずかに上回るにとどまったのである。

「複雑な気持ちでした。明日から会社がなくなるという寂しさ、悔しさ、不安感、そして頑張るぞという決意が入りまじっていました。たしかに、万歳というのはそぐわない気がしましたが、適当な言葉を思いつかなかったからです」と言うのは、当時化学品本部輸出課長だった田殿吉弘氏（現・五七歳）だ。そして続けて

「私自身は、伊藤忠さんには行きませんでしたが、化学品本部はほとんどがまとまって伊藤忠に合流しました。ですから、肩たたきなどはあまりなく、その点では比較的恵まれた部門だったのかもしれません」。

ピーク時には海外現地採用を含め、四〇〇〇人近い人員を擁し、年商二兆円を稼ぎ出していたビッグビジネスが、こうももろく消えるとは、誰もが思いもよらなかった。

〃十大商社〃の一角を占め、「堅実経営」というイメージが強かった安宅産業の経営危機が表面化したのは、二年前、昭和五〇年暮れのことであった。一二月七日付の「毎日新聞」は「米国安宅に救済措置、関係五行、今週、五〇億円送る、原油代金回収できず、六〇〇億円こげつき」と大々的に報じたのである。

▲昭和51年3月19日、安宅労組は初の時限ストライキ（1時間45分）を決行した。写真は東京・大手町の安宅産業東京本社の事務所前でピケを張る労組員。 日本経済新聞社

◀伊藤忠との業務提携発表から8日後の昭和51年1月20日、組合員3000人の安宅産業労組が誕生。 日本経済新聞社

安宅の子会社である米国安宅は、カナダのニューファンドランドで、政商と呼ばれたレバノン系アメリカ人のジョン・シャヒーンの手がけていた石油精製プロジェクト、ニューファウンドランド・リファイニング・カンパニー（NRC）に深くコミットしていた。だが、採算性、将来性などで懸念があり、しかもNRCは、折からの石油ショックのあおりを受けていき詰まっていた。そして安宅への支払いがとどこおり、後に明らかになったが、米国安宅の不良債権は一〇〇〇億円を超えていた。これが安宅崩壊の導火線となったのである。

息の根を止めた厳しい「生体解剖」

「毎日新聞」のスクープ以前から、安宅社内では、再建策の検討を開始していた。だが、実態は調べが進むにつれ、想像以上に深刻であることがはっきりしていく。しかも安宅社内は、創業者・安宅弥吉の次男、英一社主を中心とする「安宅ファミリー」が人事を壟断し、社内に亀裂が生じてもいた。そして、取引先の銀行団がこうむる損害だけでも、最終的には二〇〇〇億円に達した。安宅経営陣は、ついに白旗を掲げ、メインバンクの住友、協和両行に、事実上の「白紙委任状」を出さざるをえなかった。そして救済合併の相手として白羽の矢が立ったのが伊藤忠商事である。

昭和五〇年の大晦日、住友銀行の伊部恭之助、協和銀行の色部義明両頭取と伊藤忠の戸崎誠喜社長の会談が行われ、伊藤忠と安宅の合併を前提とした「業務提携」に基本合意する。伊藤忠に作られた安宅対策プロジェクトには、元大本営参謀の瀬島龍三副社長らが参加し、一片のセンチメンタリズムも入らない、冷徹な分析が加えられた。

その結果、伊藤忠に合流する安宅社員はほぼ一〇〇〇人、部門で言えば新日鐵の商権を抱えた鉄鋼と、化成品にいくつかが加わる程度、という厳しい内容だった。

そして実際、不要であるとか、不採算部門と認定された部署は容赦なく、分離、縮小、あるいは解体されていった。希望退職が募られ、五一年九月以降は、毎月二〇〇人近い安宅マンが、会社を後にした。どこの職場にもいくつもの大きな隙間が間断なくできていった。この過程は「まるで生体解剖だ」と評された。

「伊藤忠にすれば、お荷物はいらないと思ったのでしょう。商社もそれぞれ得手、不得手がある。競合する部分や、自分の得手の部分に対応する安宅のセクションは間引かれていきました。実際、去るも地獄、残るも地獄でした」と安宅産業常務だった高橋吉雄氏が言う。

「私も海外の得意先を訪れ、今度から伊藤忠になります、と挨拶しましたが、寂しかったですよ」（田殿氏）

折しもこの年、「窓際族」という流行語が誕生した。昭和四八年の第一次オイル・ショックは、「ただ同然の石油」を前提としていた日本経済を揺るがした。企業はこぞって減量経営につとめ、余剰人員のリストラを進めた。安宅の崩壊は、サラリーマンが気楽な稼業という時代の終焉を告げる狼煙でもあったのだ。

▶大阪市東区今橋にあった安宅産業大阪本社。東京にも東京本社を置き、両本社制をとっていた。
共同通信社

フォト＋日録で再現する365日

共同通信社

▲**中ピ連解散（7月12日）**東京のホテルで榎美沙子代表が記者発表（写真）。昭和49年結成以来、ピンクヘルで浮気男性に詰め寄るなど話題をさらったが、この年4月の参院選で立候補者10人全員が落選していた。

朝日新聞社

▲**使用済み核燃料、再処理へ（7月15日）**茨城県東海村の日本原子力研究所から隣接する動燃（動力炉・核燃料開発事業団）へ移動し、11月、溶媒抽出法により初めてプルトニウムを回収した。

▲**国際オートレースで日本人初優勝（7月31日）**世界選手権第11戦のフィンランド・グランプリ350cc級に出場した片山敬済（26）が、平均時速157.5キロで1位。2戦を残して総合優勝の快挙を達成した。

ロイター・サン／共同通信社

▲**中国ミグ機、台湾に亡命（7月7日）**操縦者は空軍第1偵察隊中隊長の范中佐（41）。対岸の福建省を脱出、台南空港に着陸した。「大陸の生活は苦しく、人権はまったくなかった」と語ったという。

ロイター・サン／共同通信社

▲**ミス・ユニバースに初の黒人女性（7月17日）**ドミニカで行われた大会でトリニダード・トバゴ代表のコミシオンさん（24）が優勝、歴史を塗りかえた。

時事通信社

▶**加藤新一老、再審無罪（7月7日）**大正4年に山口県で起こった強盗殺人事件で、有罪の決め手とされた証拠を広島高裁が退けた。写真中央が86歳の加藤老。6度目の再審請求だった。

昭和52年7月

1（金）●京都の西芳寺（苔寺）、庭園の拝観を予約制に。
2（土）●フィリピンからの漂流実験の竹筏が鹿児島着。
3（日）●サウジアラビアなど、原油価格五ドル上げ決定。OPECの石油価格一本化。
4（月）●千葉県教委、公立校教員の副業禁止を通達。
5（火）●パキスタンでクーデター。ブット政権崩壊。
6（水）●阪急の福本豊、通算五九七盗塁の日本新達成。●スイスのユニオン銀行が一人当たりGNP各国順位発表。一位クウェート、日本は一八位。
7（木）●広島高裁、山口県での強盗殺人事件再審で、加藤新一に六二年ぶり無罪の判決。
8（金）●沖縄県嘉手納基地の地主一二三人、国に所有権回復と軍用地料支払いを求め提訴。
9（土）●代々木ゼミ、私立医・歯大の裏口寄付が三〇〇〇万円以上は一二校と公表。
10（日）●大阪の家具見本市で一六〇〇人が集団食中毒。
11（月）●福岡地裁、NHKへの氏名現地語読み訴訟で在日韓国人牧師の訴えを棄却。
12（火）●榎美沙子の中ピ連と日本女性党が解散発表。
13（水）●ニューヨーク中心部で大停電。略奪が横行。
14（木）●三田誠広「僕って何」・池田満寿夫「エーゲ海に捧ぐ」が第七七回芥川賞受賞。
15（金）●「ラ・カロッツェリア・イタリアーナ77」、東京晴海で開幕。スーパーカー三四点を展示。
16（土）●東京湾は瀕死状態と横浜弁護士会特別委調査。
17（日）●キャンディーズ、普通の女の子にと引退宣言。
18（月）●主婦一二人、化粧品で顔が黒く変色とメーカー五社に賠償一億円余を求め大阪地裁に提訴。
19（火）●資金難で新幹線計画を三割に縮小と国土庁。
20（水）●川端康成の遺族、臼井吉見の小説『事故のてんまつ』は名誉毀損と慰謝料要求提訴。
21（木）●本田技研、米国内で大型二輪生産の方針発表。
22（金）●中国共産党、江青ら「四人組」の除名を決定。
23（土）●新学習指導要領で「君が代」を国歌と明記。
24（日）●関東大震災以来中断の丹沢洒水の滝祭り復活。
25（月）●法務省、北朝鮮原水禁大会代表団の入国許可。
26（火）●米韓安保協議会、韓国からの米軍撤退で合意。
27（水）●米商務省、六月の対日貿易赤字は過去最高の八億五八〇万ドルと発表。
28（木）●管制官の三割はニアミスを経験と労組発表。
29（金）●福島地裁、木村前知事に収賄罪で実刑判決。
30（土）●松本歯科大経営陣、乱脈経営で全員辞任決定。
31（日）●大平雄三夫妻ら、ヨット「さちかぜ」による八一二日間世界一周終え北九州市に帰港。

証言・あの日この日
常盤新平（45）

5月31日（火）〈暑かったり、寒かったり、変な陽気がつづく。日中は夏の暑さで、とても上着なんか着ていられないのに、夜は肌寒い。娘は毎晩のように厚い掛布団と薄いのとをとりかえている。早くどちらかにきまらないものか。……夜なんか半袖のブラウスだけという若い女性が寒そうにして、電車に乗っている。厚着をして暑そうに歩いている女性を日中、街で見かけることもある〉（常盤新平『雨あがりの街』）

この不思議な陽気のせいで常盤新平は、季節はずれの、ひどい風邪をひく。そして、この年の変な陽気は、さらに続き、連日30度を超える暑い7月をすぎ、8月に入り1週間もすると、一転、冷夏となる。25度に満たない日が続き、一番暑いはずの8月15日の、東京の最高気温は23度にしか達しなかった。（坪内祐三）

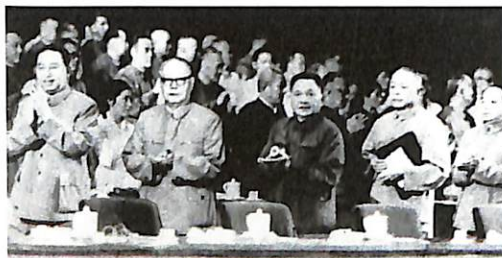
読売新聞社

▲**赤潮発生でハマチ大被害（8月28日）**瀬戸内海東部、播磨灘の養殖場で180万匹が死に、被害は15億円に達した。写真は生け簀内に浮き上がったハマチ。昭和47年以来の被害に漁民も呆然。プランクトンの異常発生で注意報が出された矢先だった。

共同通信社

▲**五つ子、名づけ親に対面（8月25日）**満1歳7ヵ月になった男児二人、女児3人が、101歳になる京都の清水寺貫主・大西良慶さんを訪れ、無事成育を報告。貫主は一人一人に頬ずりし、人形を贈った。

▼**連続射殺魔「サムの息子」逮捕（8月11日）**24歳の独身の郵便局員だった。前年夏以来、44口径ピストルでデート中の男女6人を殺し、7人に重軽傷を負わせて、ニューヨーク市民を恐怖におとしいれてきた。

ロイター・サン／共同通信社

新華社／共同通信社

▲**中国、5頭体制を確立（8月12日）**北京の人民大会堂で中国共産党第11回全国代表大会を開催。写真左から順に、華国鋒主席、葉剣英、鄧小平、李先念、汪東興の4副主席を決定。江青ら「4人組」追放後の新体制を固め、「4つの近代化」を明示した。

▶**有珠山大噴火（8月7日）**北海道支笏洞爺国立公園内の標高727メートルの火山が大音響とともに噴煙を上げ、一帯に大量の火山灰を降らせた。噴火は14日まで続き、1022世帯が1ヵ月避難生活。温泉街、農地の被害は甚大だった。

朝日新聞社

昭和52年8月

1（月）●動機不明の無差別凶悪犯罪が増加と警察庁。
2（火）●プロ野球の大洋、翌年の横浜移転を発表。
3（水）●原水協と原水禁が一四年ぶりに共闘して、原水禁統一世界大会を広島で開催。
4（木）●札幌市議会、五輪再誘致問題で市民の賛否を問う異例の世論調査実施と決議。
5（金）●母子世帯所得は平均の半分以下と厚生省調査。
6（土）●松本零士原作アニメ「宇宙戦艦ヤマト」封切。
7（日）●北海道の有珠山が三二年ぶりに噴火。
8（月）●日本山岳協会登山隊、世界第二峰のK2に二三年ぶり史上二度目、日本人では初めて登頂。
9（火）●インド政府、コカ・コーラの成分公開を要求。
10（水）●七日の成田空港騒音テストに抗議し、中核派が日航常務宅に放火、全焼。
11（木）●日立造船、国内最大の五〇万トンタンカー完成。
12（金）●日本アマチュア将棋連盟発足。
13（土）●小・中学生教育費は五年で倍増と文部省調査。
14（日）●アムネスティ日本支部、世界の政治犯釈放訴え東京―大阪間キャラバンに出発。
15（月）●三一書房刊の『愛のコリーダ』を猥褻として大島渚らを起訴（57年、二審で無罪確定）。
16（火）●エルビス・プレスリー死去。四二歳。
17（水）●ソ連の原子力砕氷船が北極点に到達。
18（木）●中国共産党主席・華国鋒、文革終結を宣言。
19（金）●日興証券高知支店に人質六人と籠城した男を、警察が強行突入して五六時間ぶり逮捕。
20（土）●「エアコンの後はビデオ」、家電業界は増産態勢に懸命、と新聞に。
21（日）●男性用オーデコロンが五年で四倍増と新聞に。
22（月）●高卒者に「大学より就職」が増加と労働省。
23（火）●天皇、記者会見で「人間宣言」は「五箇条の御誓文」伝達が目的だったと発言。
24（水）●京都市、防音設備のない深夜スナックは今後営業許可しないと決定。
25（木）●参院議員の横山ノック、公職選挙法に触れるため国連大学への寄付金を返却される。
26（金）●ブリティッシュ・ペトロリアム、日本の原子力発電量は世界第二位と発表。
27（土）●東大阪市でクラクションを鳴らした男性が前の車の男に銃で撃たれて死亡。
28（日）●埼玉県桶川飛行場で曲技練習中の複葉機墜落。
29（月）●初の三時間テレビドラマ「海は甦える」放映。
30（火）●農林省、農林水産省に改称（翌年7月発足）。
31（水）●中野浩一、世界自転車競技選手権で初優勝。

共同通信社

▲ファントム戦闘機、墜落（9月27日）米空母搭載機が横浜市の住宅地に墜落。乗員は脱出したが、幼児二人が死亡。日本側には調査権がなく、原因の解明は不十分だった。

朝日新聞社

▼台風9号、沖永良部島を直撃（9月9日）観測史上最低の907.3ヘクトパスカルを記録した。同島では風速60メートルを観測し、全半壊2200戸という被害を出した。

共同通信社

▲東京国立競技場で「ペレ・サヨナラ・イン・ジャパン」（9月10日）ペレの引退記念シリーズ。世界のスター選手を集めた「コスモス」と古河電工が対戦、ペレは終了まぎわにみごとなゴールを決めた。

朝日新聞社

▶話題の名画公開（9月12日）山梨県立美術館が開館の目玉として1億8200万円で買い入れた、ミレーの「夕暮れに羊を連れ帰る羊飼い」（写真）と「種をまく人」が、東京・銀座の飯田画廊で公開された。

共同通信社

▲過熱、ベイ・シティ・ローラーズ（9月20日）東京・日本武道館で行われたイギリスの人気ロックグループの公演に、約1万人の少女ファンが殺到。40人の少女が失神する騒ぎとなった。

共同通信社

▶「ひまわり」から第1報（9月8日）NASA（米航空宇宙局）の手で打ち上げられた、日本初の静止気象衛星。宇宙開発事業団が開発。日本に接近中の台風9号を鮮明にとらえた。

昭和52年9月

1（木）●銚子市で高校三年生が成績苦に自殺（2日大田区、7日足立区など少年少女の自殺相次ぐ）。
2（金）●林野庁、天皇在位五〇年記念「昭和の森」指定。
3（土）●王貞治、七五六本塁打の世界記録達成。
4（日）●畳業者が東京で宣伝用ミニ畳二万枚を配布。
5（月）●田子の浦のヘドロ公害住民訴訟で、東京高裁が製紙四社に浚渫費負担を命じる。
●米、惑星探査機「ボイジャー1号」打ち上げ。
6（火）●電電公社、昭和五三年から光ファイバーを世界で初めて公衆通信用に採用と発表。
7（水）●米とパナマ、運河返還を定めた条約に調印。
8（木）●静止衛星「ひまわり」から初の気象画像送達。
9（金）●長寿番付発表。一位は一一二歳の泉重千代。
10（土）●井上陽水、大麻取締法違反で逮捕（以後、内藤やす子・美川憲一ら芸能人の逮捕相次ぐ）。
11（日）●法大水泳部、創部五二年で初の学生日本一。
12（月）●環境庁、カモシカによる農作物被害がひどい岐阜県小坂町で特別に捕獲容認と決定。
13（火）●不祥事続く愛知医大の前理事ら、ホテルに監禁され三億四二五万円を脅し取られる。
14（水）●運輸省と千葉県・千葉市、千葉ルートによる成田へのジェット燃料暫定輸送協定に調印。
15（木）●社会思想社、A・ヘイリー著『ルーツ』刊行。
16（金）●一九年ぶり曲尺・鯨尺の製造販売許可と発表。
17（土）●ロックグループ、ベイ・シティ・ローラーズ大阪公演で九〇〇〇人が騒ぎ四四人失神。
18（日）●群馬県などの酪農家、乳価交渉決裂しメーカー出荷を半減させて牛乳を地中廃棄。
19（月）●割賦販売審議会、自動車・家電などの条件緩和を答申。乗用車の頭金は二〇%が一五%に。
20（火）●政府、ベトナム難民の定住は許可せずと決定。
21（水）●不公正な税制をただす会、民間税調を開く。
22（木）●東京高裁、痴漢撃退ガスの輸入禁止取り消し。
23（金）●箱根登山鉄道、旧箱根街道に季節バス開業。
24（土）●鹿児島市で西郷隆盛没後百年の式典開催。
25（日）●日中間の気象情報交換する回線設立取り決め。
26（月）●カネミ油症事件の鐘淵化学が秘密裏に一七億円の漁業補償金を支払っていたことが判明。
27（火）●横浜市の住宅地に米軍機墜落。幼児二人死亡。
●マレーシアで日航機が墜落。三四人死亡。
28（水）●日本赤軍、日航機をハイジャック。同志ら九人の釈放要求（10月1日、六人出国）。
29（木）●福田法相、日航ハイジャックで引責辞任表明。
30（金）●電力九社など、仏と核燃料再処理契約に調印。

共同通信社

▲またも超法規的措置（10月1日）9月28日、日本赤軍が日航機をハイジャックしメンバーの釈放を要求。クアラルンプール事件の奥平純三（写真上右。左から二人目）ら6人は、特別機でダッカへ出国（写真上）。

▼航空自衛隊婦人部隊、さっそうと登場（10月30日）恒例の自衛隊観閲式に初参加。婦人自衛官の採用は、陸上自衛隊が昭和42年から、海・空自衛隊が49年から始められた。

共同通信社

▶白いライオン誕生（10月26日）山口県の「秋吉台サファリランド」で、3頭生まれたうちの2頭が白い毛に包まれていた。日本では初めてで、世界でもきわめてまれ。しかし、6ヵ月ほどで通常の色に変わった。

朝日新聞社

▲円、急騰（10月）2月頃からジリジリと上がり始めた円が、この月に入って急上昇。前年平均1ドル300円弱だったレートは10月28日にはついに250円を切った。政府・日銀は買い支えや輸入拡大を行ったが、翌年にかけ、円高はさらに進んだ。

共同通信社

▶F1カー、観客席に飛びこむ（10月23日）静岡県・富士スピードウェイで行われた日本グランプリでの事故。ドライバーは奇跡的に無事だったが、観客二人が死亡、7人が負傷した。

松本次史（AP）／WWP

共同通信社

昭和52年10月

1（土）●映画「幸福の黄色いハンカチ」封切。
2（日）●テレビ朝日、「ルーツ」の放映開始（八日連続）。
3（月）●サッカーの奥寺康彦、西独1FCケルンへの加入を発表。日本人初のプロ選手に。
4（火）●税制調査会、一般消費税導入を提言。
5（水）●カネミ油症事件、福岡地裁で原告全面勝訴。
●三鷹市の小学校で給食に箸を使う実験開始。
6（木）●東京・品川区で住民がポルノ自販機追放大会。
7（金）●田英夫・江田五月ら参院で無所属クラブ結成。
8（土）●司法試験に初めて韓国籍の二人が合格。
9（日）●全日本パイプ・スモーキング選手権で東京の会社員が喫煙二時間二五分九秒の世界記録。
10（月）●歌声喫茶の草分け、新宿の「灯」が閉店。
11（火）●中学浪人は全国で一万七四八人と文部省発表。
12（水）●全国で山口組など一斉摘発。二九三一人検挙。
13（木）●最高裁、七つの堂塔の所有権めぐる東照宮と輪王寺の「日光百年戦争」に和解を勧告。
14（金）●道路公団、陸橋からの投石防止に防護網設置。
15（土）●長崎市でバス乗っ取り（16日、犯人一人射殺）。
16（日）●伝統的地場産業に円高の影響深刻、と新聞に。
17（月）●世界的なアホウドリ繁殖地の伊豆諸島鳥島で、八六羽の生存確認、と新聞に。
18（火）●ソマリアのモガジシオ空港で乗っ取られた西独機に西独軍特殊部隊が突入、犯人四人射殺。
19（水）●東京都、冬の時差出勤制度の廃止を決定。
20（木）●タイで軍部が無血クーデター。文民政権崩壊。
21（金）●山下和仁、パリ国際ギター・コンクール一位。
22（土）●色丹島沖で蟹一〇匹捕獲した根室の漁船がソ連から不法漁労で罰金一〇〇万円請求される。
23（日）●東京の二郵便局最後に日曜配達実施局全廃。
24（月）●大阪で全国初の「サラ金被害者の会」結成。
25（火）●池袋サンシャイン60によるテレビ受信障害は一〇万三〇〇〇世帯とNHK調査。
26（水）●防衛庁、F15戦闘機に空中給油方式導入表明。
27（木）●神社本庁で爆弾爆発。六人負傷（28日、「世界革命反日戦線・大地の豚」が犯行声明）。
28（金）●中央薬事審、ペニシリン軟膏の禁止を答申。
●阪急、巨人を破り日本シリーズ三連覇。
29（土）●スモン訴訟で和解派原告と田辺製薬のぞく製薬二社・国の和解が八億円支払いで成立。
30（日）●東京の開成学園高生徒を、父親が暴力に耐えかねて殺害（翌年7月、母親が後追い自殺）。
31（月）●建設省、信濃川河川敷を廃川敷処分にと発表。河川敷の半分が田中金脈の室町産業に移転。

毎日新聞社

▲「男子厨房に入ろう会」スタート(11月5日)東京ガス銀座センターで、「食べる身になって調理しよう」と発会式を行った。会員は会社員、医師など20人。現在200人が活動を続けている。

共同通信社

▲日本女子バレー三冠達成(11月15日)大阪市中央体育館で行われたワールドカップ決勝リーグで、前田、白井らが活躍、3ー1で韓国を下して初優勝した。昭和49年の世界選手権、前年のモントリオール五輪に続く栄冠だった。

▶エジプト、対話路線を選択(11月19日)サダト大統領(左)がイスラエルを訪問、ベギン首相(右)らと会談し、中東の永続的和平、パレスチナ国家建設、イスラエルの占領地からの撤退を呼びかけた。

WWP

▼神戸「異人館」、重文に(11月26日)明治42年建築のドイツ風建物「旧トーマス邸」で、NHKの連続ドラマ「風見鶏」のタイトルバックのモデルに使われた。

朝日新聞社

▶米軍立川基地、32年の歴史に幕(11月30日)昭和47年からは自衛隊と共同使用していたが、この日、米軍が完全撤退した。写真は返還式典。跡地は一部をのぞき、公園・防災基地となった。

共同通信社

▶真宗の本山に爆弾(11月2日)京都の東本願寺大師堂で消火器を利用した時限爆弾が爆発した。爆薬は約1.6キロで、床に穴があいたがけが人はなく、「やみのつちぐも」名の犯行声明が見つかった。犯人は過激派の一員で昭和58年に逮捕。

共同通信社

昭和52年11月

1(火)●米、ILOからの脱退を正式通告。
2(水)●室戸岬沖でタンカーが爆発炎上。八人死傷。
3(木)●国連総会、ハイジャック防止決議を採択。
4(金)●閣議、第三次全国総合開発計画を決定。
5(土)●京都競馬で七頭転倒。騎手一人、馬一頭死亡。
6(日)●少女漫画誌が月二〇〇〇万部突破、と新聞に。
7(月)●動燃、日本で初めて単体のプルトニウム抽出。
8(火)●奈良県立医大で昭和三〇年代の大量裏口入学が発覚。同大学の教官五〇人が裏口入学者。
9(水)●医師優遇税制は不公平の典型と国税庁長官。
10(木)●山梨県警、シートベルト着用者に賞状を出す。
11(金)●全国消費者大会、円高差益還元要求を決議。
●韓国でダイナマイト積載の貨車が爆発。二〇〇〇戸が全半壊、死傷者約一四〇〇人の惨事。
12(土)●「農村は住みよい」が八七㌫と政府世論調査。
●カシオ、マイコン内蔵電卓「アラーム・コンピュータ」を発売。多機能電卓の先駆け。
13(日)●世良公則の「あんたのバラード」が第八回世界歌謡祭グランプリを獲得。
14(月)●古河電気工業と古河電池、電気自動車のニッケル・亜鉛蓄電池を開発と発表。
15(火)●気象庁、小笠原諸島の天気予報を開始。天気予報が始まって九三年目で予報空白地域解消。
16(水)●建設省が会計検査院接待の請求書偽造と判明。
17(木)●吹田市の万博跡地に国立民族学博物館開館。
18(金)●石油九社の中間決算。為替差益は五一六億円。
19(土)●エジプトのサダト大統領、イスラエル訪問。
20(日)●道営競馬で一、二着馬から覚醒剤検出。
21(月)●ソニー、厚さ九ミリの携帯ラジオ「ミリQ」発売。
22(火)●プロ野球ドラフト会議でクラウンライターが江川卓を指名(12月3日、江川拒否)。
23(水)●営団地下鉄が開業以来二〇〇億人突破と判明。
24(木)●一ドル=二三八円まで続騰の円に、日銀が六億ドルの記録的介入。二四〇円を維持。
25(金)●ハイジャック防止対策法成立。
26(土)●上越・東北新幹線の上野地下駅新設が決定。
27(日)●輪島が双葉山と並ぶ一二回優勝(史上二位)。
28(月)●アフリカの魚ティラピアの養殖に脚光、「いずみだい」の名で売り出し中、と新聞に。
29(火)●電力九社の九月期決算で、円高差益一七五億円、経常利益は八九㌫増と判明。
30(水)●小西六(現・コニカ)、世界初の自動焦点カメラ「ジャスピンコニカ」を発売。
●在日米軍、東京の立川基地を全面返還。

時事通信社

▼新潟県巻町、原発誘致へ(12月19日)東北電力が計画、町議会がこの日、誘致を決議した。反対派600人が議場入り口に座りこんだが、機動隊により排除された。

▲羽田空港で鳥退治(12月12日)飛行機と鳥の衝突が事故の原因となるおそれがあるため。銃声で鳥を追い払うのが主目的だが、この日は9羽が仕とめられた。

▶「秋鮭」豊漁(12月)故郷へ回帰して漁獲された秋鮭は1000万尾で史上2位。昭和40年代に回帰率が倍増したためで、北海道・千歳川(写真)でも史上最高を記録した。

朝日新聞社

▲アレックス・ヘイリー来日(12月7日)この年世界的なブームを巻き起こした『ルーツ』の作者。大阪と東京で講演を行った。写真は大阪・道頓堀を歩く同氏。

朝日新聞社

▲林海峯(35)、囲碁名人に復位(12月6日)同年齢の大竹英雄前名人を4連勝で破り、名人位に復帰した。この時期、二枚腰の林、厚みの大竹と、「竹林時代」が続いた。

毎日新聞社

▶不況で織機を廃棄(12月19日)消費不振、安い輸入製品の増加、円高による輸出減少から苦況に立った繊維業界は織機削減と操業短縮で危機を乗り切ろうとした。写真は織機を壊す大阪府の織物業者。

共同通信社

昭和52年12月

1(木)●日本生活協同組合連合会、英国生協と提携してスコッチウイスキー「コープ」を発売。
2(金)●『厚生白書』、社会保障制度などで「高負担時代の到来」を予測し、論議を求める。
3(土)●大卒男子初任給が一〇万円突破と労働省調査。
4(日)●乗っ取られたマレーシア航空機、機長が射殺され湿地帯に墜落、一〇〇人全員死亡。
5(月)●ピンク・レディーの「UFO」発売。
●大学・短大進学率が一一年ぶり減少と文部省。
6(火)●第一勧銀、金融界初の教育ローン要領を発表。
7(水)●東京のネズミが猫並みに巨大化、乳児を噛むなど狂暴性増す、と新聞に。
8(木)●宮崎市ー沖縄間の通信海底ケーブルが開通。
9(金)●三菱商事・丸紅・三井物産・日商岩井、ソウル地下鉄車両輸出で二億円余のリベート発覚。
10(土)●警視庁、マイコン内蔵の飲酒運転探知機採用。
●国際アムネスティ、ノーベル平和賞を受賞。
11(日)●別府市に身障者が働く全国初のスーパー開店。
12(月)●羽田空港で鳥と航空機との衝突防止のため猟銃による威嚇作戦が始まる。
13(火)●社会党、新委員長に飛鳥田一雄を選出。
14(水)●会計検査院、医師の七二㌫みなし必要経費は実際は五二㌫と報告。七〇〇万円の実質免税。
15(木)●日本初の静止通信衛星「さくら」、NASAにより打ち上げ。
16(金)●初の国産近距離空対艦誘導弾の発射試験成功。
17(土)●国鉄、世界初の超電導磁石利用リニアモーターカーの浮上走行に成功。
18(日)●公団住宅などの手抜き工事極秘文書が発覚。
19(月)●大井川鉄道がスイスの鉄道と「姉妹鉄道」に。
20(火)●君津市に大規模太陽熱温水プール完成と発表。
21(水)●渡部絵美、全日本フィギュアで初の六連覇。
22(木)●通産省、家庭用灯油の為替差益還元を通達。
23(金)●小笠原諸島の母島に初の公衆電話開設。
24(土)●大蔵省、国民金融公庫での進学ローン案発表。
25(日)●チャールズ・チャップリン、死去(八八歳)。
26(月)●一〇月までに覚醒剤検挙者一万二〇一七人、うち主婦が二九三人と警察庁調べ。
27(火)●厚生省国民栄養調査。成人に肥満傾向が強く、五十代女性の三割が太りすぎ。
28(水)●交通事故死者が一九年ぶり八千人台と警視庁。
29(木)●文部省、豊橋・長岡両技術科学大新設を発表。
30(金)●東京の救急車出動が年二五万余回の新記録。
31(土)●人口統計発表。離婚が一三万件弱の史上最高。

俄楽多市（がらくたいち）

流行語

“口からでまかせ”が受けた

「ハナモゲラ語」。タモリが口から出まかせにしゃべる言葉が、若者たちに爆発的に受けた。彼自身、これを“ハナモゲラ語”と称し、次のように“定義”した。「主語、述語、目的語が前後のみさかいなく、破廉恥なくらい無関係に並んでいる。発音は口の都合に合わせてヘベレケ精神で行います」。

この徹底したナンセンスさが人気の秘密だった。

「〇〇の証明」。森村誠一の推理小説『人間の証明』がベストセラーとなり、映画もヒットした。それをまねて“愛情の証明”“童貞の証明”など、いろんな形に流用された。

「今やろうと思ったのに」。ライオン油脂の洗剤「ルック」のCM。西田敏行のせりふが、やる気もないくせにいいわけだけは一人前という感じをうまく表現していて、現代っ子に受けた。

「話がピーマン」。学生用語で話の中身がないこと。このほか、「話がレタス」＝真っ青になる話、「話がトマト」＝真っ赤な嘘、「話がキュウリ」＝長いなど、この年は“野菜語”が氾濫した。

◀東京・浅草の木馬館で昭和13年以来の安来節公演が打ち切られ、6月1日から「さよなら公演」が催された。

時事通信社

科学

日本人が捕らえた“世界初の魚”に命名

二年前の昭和五〇年夏、都水産試験場の二人の職員が世界で初めて捕らえた魚に、このたび「真珠アナゴ」という日本語学名がつけられた。体型がアナゴに似ていて、体の白点が真珠のように見えるというのが命名の理由。二人の職員はこれを八丈島で発見したが、そこでは数千から数万の群れが尻尾を海底の砂の中に突っこみ、かま首をもたげて、コンブのようにゆらゆら揺れながら餌を待っていたという。

（「毎日新聞」五月二二日）

社会

大阪のスーパーでゴキブリ撲滅大作戦

〔大阪発〕家庭の大敵ゴキブリを一匹一〇円で買い上げます――と東大阪市のスーパー「イズミヤ」若江岩田店が、七月二二日からゴキブリ撲滅大作戦を行った。同店のテナント三〇店が「開店八年で、どの店も順調、そのお返しを」と考えたアイディアで、生死や大小を問わず買い上げるというもの。これには市も協力、殺虫剤一〇〇袋などを提供した。

ところが来るわ、来るわ、初日の朝、周辺の六万世帯に新聞でチラシを配ったが、一一時の受付開始時には、ビニール袋にゴキブリを入れた主婦、小学生六〇人が行列、終了日までに一〇万匹が集まった。「用意した一〇〇万円がちょうどなくなりました。ゴキブリいうのは、ようけおるもんですな」と主催者もあきれ顔。

（「週刊読売」八月一三日号）

CM100年　タレント・研ナオコ

テレビCF
「トンデレラ、シンデレラ
――キンチョール」（大日本除虫菊）

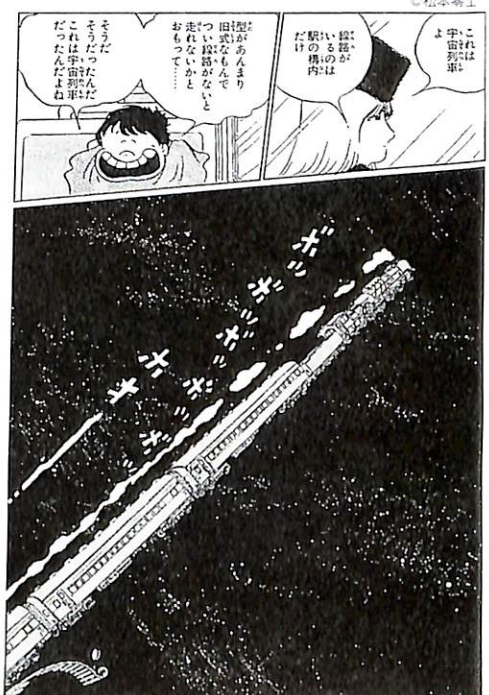
©松本零士

これは宇宙列車よ

線路がいるのは駅の構内だけ

型があんまり旧式なもんでつい線路がないと走れないかとおもって……

そうだ そうだったんだ これは宇宙列車だったんだよね

ボッ ボッ ボッ ボッ ボッ ボッ シュッ

▲松本零士作「銀河鉄道999」の連載が、この年「少年キング」で始まった。昭和54年には映画にもなった。

データ

若くて高学歴ほど関心 日本人のお化け観

統計数理研究所の林知己夫所長が日本人のお化け観を調査した。対象はネッシー、宇宙人、幽霊、河童、怨霊など一一種類。

「怨霊への関心」…二〇代女八〇、二〇代男五五、五五歳以上女五二、五五歳以上男……二〇。「超能力への関心」…二〇代女六七、二〇代男七五、五五歳以上女四五、五五歳以上男四……〇。

鬼、河童など古典的お化けに対する関心は性別、年代を問わず二〇台。総じて若くて学歴が高いほどお化けに対し、心を揺さぶられることがわかったという。

（「朝日新聞」九月二日）

三面記事

盗みは日の丸のご加護で……

盗みに出かける前には壁いっぱいに張った日の丸に向かって「どうぞ“仕事”がうまくいきますように」と手を合わせ、戻ったら「今日もうまく盗むことができました」と感謝のお祈りを捧げていた男（三六）が大阪府警に捕まった。

男は日の丸のご加護を頼むからには、自分にもそれなりの努力が必要だと考え、一日一〇万円以上盗むこと、盗む時は一〇キロでも二〇キロでも歩くことの二つを自分に義務づけ、そのとおりに実行していた。

（「朝日新聞」九月二日）

▲8月、盤の中央に3インチのテレビがはめこまれたパチンコ台が登場。

時事通信社

役人

四割は汚職予備軍？ 都の係長の調査

都庁で汚職事件が相次ぎ、五人が逮捕された。しかもそのうち三人が係長だったところから、仕事ばかり多くて、昇進の道が少ない係長の存在がクローズアップされた。そこで六七〇人の係長にアンケート調査したところ、“あぶない人々”がほかにもいることがわかった（回答四三三通）。たとえば業者から金品提供や接待の申し出を受けた人が一六三人（三八％）いた。しかも今の係長のありようは「汚職につながる」と考えている人も同数いた。中には「仕事だけ多くて昇進の道が狭いとなれば、モラルが低下するのは当たり前」とはっきり言う係長もいた。

（「週刊とちょう」三月一九日号）

◀吹田市の万博記念公園内に国立民族学博物館が完成。一一月一七日、一般公開。

共同通信社

部活

大学で花盛りピンク研究会

今、大学ではピンク研究会が大流行している。先鞭をつけたのは慶大で、昭和五一年暮れに「慶大キャバレー研究会」が正式に発足、男性一三人と女性二人の部員が実践研究を始めた。特に女性部員はアルバイト・ホステスになって客の生態や心理をレポートしているという。これに負けじと早大にできたのが「早大亀の会」。ひらたく言えばのぞき趣味の会である。部員は一三人で女性一人。最近まで一五人で、女性ももう一人いたが、アベックでのぞきに出かけるうちに親密な関係となり、「のぞくより自分たちで……」とやめてしまった。目下「都内のぞきマップ」を作製中。

このほか明大と関大にはピンクサロン研究会があり、ピンクサロンの安くて効率的な利用法を研究、日大と大阪市大ではストリップ研究会も、鋭意活動中である。

（「週刊現代」六月一六日号）

この年の初もの

ご当地ビール 阿波踊りで限定販売

●コンピュータつき飲酒検知器　警視庁が一二月に導入。

●サラ金被害者の会　一〇月大阪で結成。

●MIP（Most Impressive Player）　パリーグが設定。第一号は阪急の足立光宏投手が受賞。

●禁煙タイム　大阪の地下鉄御堂筋線梅田、難波両駅が朝夕のラッシュ時禁煙に。

◀四月一六日、平凡出版（現・マガジンハウス）が「クロワッサン」を創刊。月刊で四八〇円。

マガジンハウス提供

▲ゼネラル（現・富士通ゼネラル）が8月、日本初のビデオディスクプレーヤーを発売。再生時間は10分。15万円。　富士通ゼネラル

はやり歌

勝手にしやがれ

作詞　阿久悠
作曲　大野克夫

壁ぎわに寝がえりうって
背中できいている
やっぱりお前は出て行くんだな
悪いことばかりじゃないと
想い出かき集め
鞄につめこむ気配がしてる
行ったきりならしあわせになるがいい
戻る気になりゃいつでもおいでよ
せめて少しはカッコつけさせてくれ
寝たふりしてる間に出て行ってくれ
アア　アアア……
バーボンのボトルを抱いて
夜ふけの窓に立つ
お前がふらふら行くのが見える
さよならというのもなぜか
しらけた感じだし
あばよとサラリと送ってみるか
別にふざけて困らせたわけじゃない
愛というのに照れてただけだよ
＊夜というのに派手なレコードかけて
朝までふざけようワンマンショーで
アア　アアア……　（＊　繰り返す）

ポリドール提供

▲第19回日本レコード大賞、第8回日本歌謡大賞受賞作。沢田研二が独特のスタイルを確立。

津軽海峡冬景色

作詞　阿久悠
作曲　三木たかし

上野発の夜行列車　おりた時から
青森駅は雪の中
北へ帰る人の群れは　誰も無口で
海鳴りだけをきいている
私もひとり　連絡船に乗り
こごえそうな鷗見つめ
泣いていました
ああ　津軽海峡冬景色
ごらんあれが竜飛岬　北のはずれと
見知らぬ人が指をさす
息でくもる窓のガラス　ふいてみたけど
はるかにかすみ見えるだけ
＊さよならあなた　私は帰ります
風の音が胸をゆする
泣けとばかりに
ああ　津軽海峡冬景色
（＊　繰り返す）

えとせとらレコード博物館提供

▲石川さゆりがアイドル歌手としてデビューして3年、この歌で大ヒットを飛ばし、一流歌手に。

世界の動き

犠牲者三〇万人を出したウガンダの恐怖!
独裁者・アミン大統領の素顔

▶1975年10月1日、国連総会で挨拶するアミン大統領。身長190センチ、体重120キロの堂々たる体軀。 CORBIS-BETTMANN／PPS

「聖職者までが殺される」——一九七七年二月の英国国教会大主教の不審な事故死は、アミン・ウガンダ大統領のおそろしさを世界の人々に印象づけた。しかし、アフリカでは、アミンを支持する声も少なくなかった。列強の分割政策で部族対立の絶えないアフリカでは、第二、第三のアミンが出る可能性は今もあるのだ。

交通事故か、謀殺か?
英国国教会大主教の死

「大統領転覆計画に関与して逮捕されたウガンダ英国国教会大主教・ルウム氏と閣僚二人は、逃亡をはかり交通事故のため死亡した」

一九七七年二月一七日、ウガンダ放送が発表したこのニュース、それも聖職者の死は、世界中に衝撃を与えた。

ウガンダの大統領は、七一年の政権獲得直後から反対派に対する弾圧を行っていたイディ・アミン(四九)。大統領転覆計画への報復として反政府と目された部族数千人の虐殺が伝えられる最中の事件に、誰もが不信の色を隠さなかった。

英労働党のジェナー議員は「汚れた血の殺害をおおい隠そうとするものである」と、いち早く「謀殺」を主張。英国政府は国連人権委員会を通じた調査を厳しく要求した。ヤング米国国連大使は「ルウム氏は暗殺された」と断言し、当時、ウガンダと犬猿(けんえん)の仲にあったタンザニアの国営新聞は「アミンみずからが射殺した」とまで言いきっている。

しかし、当のアミンも黙っていなかった。カーター米大統領が「ウガンダの行為は文明国に嫌悪をもよおさせる」と非難すると、「米国は自国の人権侵害を検討すべきだ」と反撃し、二月二五日、在ウガンダの米国人に出国禁止令を発して拘束した。不測の事態に備えた米国は、空母「エンタープライズ」を旗艦とする機動部隊をインド洋に待機させた。アミンは三月一日に〝人質〟に指一本触れずに解放、「『エンタープライズ』と対決した唯一のアフリカの大統領として限りなく誇りに思う」とうそぶいた。

大統領の親族も消された
アミン八年間の独裁政治

ウガンダ国軍の参謀総長だったアミンが、オボテ大統領の外遊中にクーデターで政権を掌握したのは、一九七一年一月二五日のこと。

「オボテ前大統領は自分の出身部族の人間を極端に優遇し支配層を固めていました。そのくびきを取り払ったアミンに、国内は歓迎ムードでいっぱいでした」

日本とウガンダの合弁衣料製造会社の工場長として、一九六四年から一九年間ウガンダに暮らした柏田雄一(かしわだゆういち)氏(現・六五歳)は、当時を振り返って言う。

さらにアミンは翌年八月に、「経済のウガンダ化」を宣言し外国企業を接収。コーヒー・紅茶・砂糖などウガンダの産業を握っていた約八万人のインド人(ほとんどが英国籍)に国外退去を命じた。インド人がウガンダ国籍を取得しようとせず、「牛(ウガンダ)から乳をしぼるだけで、餌(えさ)を与えなかった」からである。

また七五年には「アミンは村の暴君」と評した英国人教師に死刑を宣告。その特赦のためにキャラハン英外相をウガンダに呼びつけて謝罪させた。こうしたアミンの言動に欧米諸国は眉をしかめたが、ウガンダ国民はもとよりアフリカ諸国は拍手したのだった。

しかし一方では旧支配層に対する弾圧は苛酷(かこく)をきわめ、すでに七一年にはナイル川にワニが食べきれないほどの死体が浮かび、「水力発電所吸水口をふさいでしまうことがしばしばだった」(ヴィーデマン著『アミン大統領』)と言われるほど。さらに七二年にリビアのカダフィから財政援助を受けると、突如として「ウガンダをイスラム教国にする」と宣言。国民の八五%(パーセント)を占めるキリスト教徒の迫害を始めたことも虐殺の犠牲者をふやすことになった。七七年五月の国際法律家委員会(ICJ)の発表によれば、「権力を握ってからの六年間で少なくとも八万ないし九万人が虐殺され、現在までの

▲1975年6月、ウガンダの首都カンパラで白人にかつがせた輿に乗り、ご機嫌のアミン大統領。 キーストン

往きて還らぬ

▲10月27日　前田青邨(92)
画家。元東京芸大教授。歴史画に優れ法隆寺金堂壁画や、高松塚古墳壁画の再現に寄与。昭和30年文化勲章受章。

▶9月16日　マリア・カラス(53)
オペラ史上に輝く名ソプラノ歌手で、「トスカ」などのイタリア・オペラで活躍した。一九六五年引退。

▲10月29日　千代の山雅信(51)
力士。昭和20年新入幕、192センチ、120キロの巨体で突っ張りを得意とし、26年横綱。引退後、九重部屋をおこす。

▲9月19日　今東光(79)
小説家。僧侶。大阪河内地方の風土ものを得意とし、毒舌でも知られた。昭和43年には政界入り。代表作『お吟さま』。

▲4月6日　木戸幸一(87)
政治家。木戸孝允の孫。昭和15年内大臣となり天皇側近をつとめる。戦後A級戦犯で入獄し、天皇には退位を勧めた。

▲2月16日　末川博(84)
元立命館大総長。法学者で民法学の権威。民主主義の確立に尽力し、教育改革で功績を残す。著書に『民法大意』。

▲12月1日　海音寺潮五郎(76)
小説家。昭和4年「うたかた草紙」で認められ、歴史小説で人気を博した。代表作に『天正女合戦』『武将列伝』など。

▲10月14日　ビング・クロスビー(73)
アメリカの歌手、映画俳優で、1954年「ホワイト・クリスマス」が大ヒット。映画「珍道中」シリーズでも人気。

▲5月22日　江田三郎(69)
政治家。戦前、農民運動に参加。昭和35年社会党書記長、52年離党後、社会市民連合を結成。江田五月は長男。

▲3月3日　竹内好(66)
中国文学者、評論家。昭和19年『魯迅』を発表。28年都立大教授となるが、35年の安保条約強行採決に反対して辞任。

▶12月25日　チャールズ・チャップリン(88)
喜劇映画を自作自演し、“喜劇王”と呼ばれた。代表作に「モダン・タイムス」「チャップリンの独裁者」など。

▼8月16日　エルビス・プレスリー(42)
「ハートブレイク・ホテル」などで知られる、ロック界のスーパースター。死後、米大統領が追悼声明を発表した。

▲3月21日　田中絹代(67)
女優。昭和13年「愛染かつら」で一躍人気スターに。28年「恋文」で初の女性監督となった。ほかに「西鶴一代女」など。

外から見たNIPPON

日本への旅で完結した映画監督ペキンパーの“心の円”

——佐伯　修

銃弾を受けた人物から噴き出した血しぶきのスローモーション撮影など、リアルなバイオレンス描写でセンセーションを呼んだ、アメリカの映画監督サム・ペキンパー(一九二五～八四)は、この年の二月、初来日した。新作「戦争のはらわた」のキャンペーンのため、主演男優のジェームス・コバーンをともなっての来日だったが、ペキンパーは日本をいっぺんで気に入った。

「二十年前にやってくるべきだった。ずっといたいんだが、何か居座るいい方法はないかね」(「毎日新聞」二月一六日夕刊)

これは、たんなる新聞記者へのリップサービスではなく、大げさに言えば、日本は、彼にとってある種の“宿縁の地”だったらしい。石上三登志によるインタビューの中で、彼はこんなことを言っている。

「不思議な事に、日本にきてはじめて僕の“円”が完結するような感じがする……三〇年前にはじまったアメリカ、メキシコ、中国という円が……」(「キネマ旬報」一九七七年三月下旬号)

ペキンパーは、カリフォルニア州のサン・ヨアキン・ヴァレーの農村に生まれ、そこでは「日本人も中国人もユダヤ人も、みんな一緒に育ち、すべてを分けあってきた」。少年時代のガキ大将は「アイボウ」と呼ばれた日本人だった。だが、まもなく「悲しい時代」が始まる。戦争である。ペキンパーは、海兵隊員として、メキシコ、次いで中国へ送られた。彼は、石上に、終戦直後の中国で、敗戦国民の日本人を暴徒から守った時のエピソードを語っている。

「五歳の日本の女の子を熱烈に愛した事もあるよ。一九四五年のクリスマスだったけど、僕はその子の家のガードだったんだ。(中略)雪が降ってた。すると、その子が家から出てきて、僕に“ありがとう”って言ったんだ。とってもきれいな子だった。僕はもう、すごく感動してしまってね、思わず彼女に捧げ銃をした」(同)

彼自身強く否定したように、ペキンパーが暴力を執拗に描いたのは、暴力が好きだからではなく、むしろ、彼の幼少年時代にあったような、愛情と相互理解に満ちた世界をたたき潰した、暴力への激しい憎しみがあったからではなかろうか。暴力シーンの多い彼の映画には、なぜかかならずといっていいほど、大人たちの愚行を、じっと見ている子どもたちの姿がある。

ペキンパーは、彼の“円”の構成要素で、「ワイルド・バンチ」や「ガルシアの首」の舞台、メキシコで世を去った。

▶黒澤明の「羅生門」に強くひかれた。

朝日新聞社

犠牲者は一〇万人を超え」たのだった。

こうした恐怖政治に内外からの批判が高まると、追い詰められたアミンは次第に虐殺をエスカレートさせていった。

「七七年頃から暗殺事件が頻発するようになり、街中に恐怖感が漂っていました。工場のウガンダ人マネージャーが軍に連れ去られたこともあります。この時は、政府に手をまわして救出しましたが、二、三時間の間に、もう頭の毛は剃られ顔がはれあがっていました」(柏田氏)

反アミンのレッテルを貼られたら大統領の親族でも容赦されなかった。最高の権力機関「防衛評議会」を固めていたアミンの親族七人のうち六人が、七七年末から次々と姿を消したのである。

一九七九年四月、タンザニア軍と反政府ゲリラ・ウガンダ民族解放戦線の前に首都・カンパラが陥落し、アミンはリビアへ逃亡。最終的には犠牲者三〇万人と言われたアミンの恐怖政治は幕を閉じた。

一九七三年にアミンと単独会見した当時「朝日新聞」記者の久保田誠一氏は、「第二、第三のアミンが出てくる可能性は、今もアフリカにある」と語る。

「ルワンダ内戦がいい例ですが、今もアフリカには部族対立が絶えません。アミンも少数派部族出身だったために政権獲得直後から何度も暗殺されかかりました。だから秘密警察や軍隊を使って、多数派部族をおさえつけざるをえなかった。植民地時代に勝手な線引きをされ、五〇〇の部族が五三ヵ国に別れて暮らすアフリカでは、いつアミンのような人物が出てきてもおかしくないのです」

イディ・アミン(1928～　)
ウガンダの軍人、政治家。プロ・ボクサーから軍隊に入る。一九七一年クーデターに成功し大統領に。七九年ウガンダ民族解放戦線に敗北して逃亡。

▶一九七二年二月、ビクトリア湖畔の町、ジンジャのサッカー場での反アミン派に対する公開処刑。

WWP

既刊33冊! 1940年代と1960年代がそろいました。

週刊 YEAR BOOK 日録20世紀

第34号 10月7日(火)発売 定価560円
毎週火曜日発売 講談社 本体533円

1978[昭和53年]

●特集
ルーツは神戸・三宮! 「カラオケ」大ブーム始まる/新幹線に驚き、田中角栄邸を訪問、鄧小平が日本滞在中に見せた"外交術"/一年で自殺者一八〇人を出した「サラ金地獄」のカラクリ/イギリスで第一号誕生! 「試験管ベビー」ルイーズちゃん

●ニュース・ファイル
フォト+日録で再現する365日…「嫌煙権確立をめざす人びとの会」結成(2月18日)/新東京国際空港開港(5月20日)/栗栖統幕会議議長、緊急時には自衛隊の超法規的行動もあると発言(7月19日)/エジプト・イスラエル・米三ヵ国首脳、中東和平調印(9月17日)/江川卓と巨人、「空白の一日」つき電撃契約(11月21日)

●人物クローズアップ
矢沢永吉、後楽園で歌った思い出の一曲

●決定的瞬間
ガイアナ「人民寺院」で集団自殺

●美の出会い
アーヘンの大聖堂など、「世界遺産」初登録

●女たちの肖像…吉行和子、「愛の亡霊」で主役/**勝者・敗者**…宗茂、弟の猛とマラソン"黄金時代"を開く/**証言・あの日この日**…江藤淳、吉行淳之介/**20世紀博物館**…現代ガラスの博物館(東京都港区)/**「現場」を歩く**…原宿、"竹の子族"の舞台/**外から見たNIPPON**…M・フーコーが禅院で見た"謎としての日本"

●ベストセラー…『頭のいい税金の本』/**スターと名場面**…「鬼畜」「サード」/**モノ語り'78**…「日本語ワードプロセッサ」

ミニ事典

1977年のキーワード

静止衛星

地球の自転と同じ角速度で地球を周回するため、地上からは静止しているように見える人工衛星。通信・放送・気象などのデータを送受するシステムの核として利用価値が高い。日本では二月二三日に宇宙開発事業団が打ち上げた技術試験衛星「きく2号」が第一号。七月に気象衛星「ひまわり」、一二月に通信衛星「さくら」が米国に委託して打ち上げられ、にわかに静止衛星時代を迎えた。

宇宙開発事業団提供

▲「きく2号」。日本は米ソに次ぎ、3番目の静止衛星保有国となった。

素材缶詰

料理素材を、そのまま使えるように適当な大きさに切り、味付けせずに煮て缶詰にしたもの。アサリ、タケノコ、ダイズ、マッシュルームなどが一般的。紀文食品と西友ストアは四月一日、ゴボウ、ニンジンなどを加えて売り出し好評を博した。六月二二日付「朝日新聞」は「手早く好みの味付けができ、従来の調理済み缶詰やインスタント食品に飽きた女性たちの人気を得た」と分析。

かび防止剤OPP

アメリカで輸出用のグレープフルーツやレモンなどの表皮に塗るかび防止剤。オルトフェニルフェノールの略。遺伝・慢性毒性があるため禁止されていたが、厚生省は四月三〇日、柑橘類に限り一〇ppm以下の使用を認めると省令改正。米側の農産物自由化要求にともなう政治的圧力に屈したかっこうになった。

エアバス

大量の客を乗せることで低価格の運賃を実現しようとした大都市間を結ぶ航空機。今日では国内線・短距離国際線に使われている二五〇〜三五〇人乗り、客室内に二本の通路を持つ大型ジェット旅客機。ダグラスDC10、ロッキードL1011、エアバスA300など。この年、五月から大阪空港にも就航、空の大量輸送時代が始まった。

▲全日空が導入したエアバス、ロッキードL1011トライスター。

魚ころがし

現物は冷凍倉庫にあるが、持ち主だけが代わること。「魚隠し」とともに二〇〇カイリ時代到来による漁獲量大幅低下を見越して、水産会社や商社が行った価格操作。魚価暴騰の原因とマスコミにたたかれた。東京都は臨時魚価対策本部を設けて、五月一三日に冷凍倉庫一四〇ヵ所の一斉立ち入り検査を行ったが、実態を解明することはできなかった。

腎臓バンク

死後に腎臓を提供するドナー(供与者)と移植希望者を登録し、死体腎の効果的活用をはかるための機構。六月一日発足。ドナーは社団法人腎臓移植普及会、移植希望者は国立療養所佐倉病院に登録した。臓器移植には組織不適合性があるため、手術の可能性と確実性を高めようと、平成七年には全国組織の「日本腎臓移植ネットワーク」が誕生した。

日本腎臓移植ネットワーク提供

腎臓提供連絡先電話《24時間待機》
0434-85-7011
●腎臓を提供していただく事態が発生したときは上記にご連絡下さい。
腎臓提供者カード
このカードは下記に登録されております。上記の腎臓提供の連絡以外のご質問ご照会等はすべて下記にお願いします。
照会問合せ 社団法人腎臓移植普及会☎(03)502-2071〜3
〒105 東京都港区虎ノ門1-15-16 船舶振興ビル5階

▲「腎臓提供者カード」。腎臓の提供を申し出、腎臓バンクに登録した人が携帯した。現在は自由配付制になっている。

二〇〇カイリ漁業水域

漁業権を行使できる範囲を二〇〇カイリ(約三七〇キロ)とする経済的海洋秩序。一九七三年(昭和四八)開催の第三次海洋法会議以降、世界的論議となったが、領海とのからみから先進国と開発途上国が対立。七六年にアメリカがその権利を漁業権に限るとする法律を設定、以降各国もそれにならい、この年、日本の七月一日施行を含め、五〇ヵ国以上が二〇〇カイリ体制に入った。

津地鎮祭訴訟

三重県津市が市立体育館起工に際して公費で地鎮祭を行ったのは信教の自由、政教分離を定めた憲法に違反するとして起こされた訴訟。戦後、地方自治体の宗教的行事を問う初の裁判だった。第一審の津地裁は合憲、第二審の名古屋高裁は違憲判決を下したが、七月一三日、最高裁は「社会の一般的慣習に従った儀礼」として合憲との判決を下した。

昭和の森

林野庁が天皇在位五〇周年記念の事業予定地として選んだ国有林・県有林。九月二日、国有林から静岡県の天城国有林と北海道の野幌国立自然休養林、県有林から茨城・愛知・和歌山の三ヵ所、合わせて五ヵ所が選ばれた。国は二ヵ年計画でこれらの森を整備、平成二年には全国で八ヵ所になった。

田子の浦住民訴訟

静岡県富士市市民が、製紙工場が田子の浦に排出したヘドロの浚渫を県が行い、その費用を製紙会社に請求しなかったのは違法であるとして起こした訴訟。昭和四九年の一審は敗訴したが、九月五日、東京高裁は「原因者負担の原則」から大昭和・大興・興亜工業・本州の四製紙会社に一〇〇〇万円の支払いを命ずる判決を下した。

超法規的措置

日本赤軍のハイジャック、人質を盾にしての要求に、法律を無視して従った日本政府の措置。九月二八日、日本赤軍は人質と交換に赤軍派七人、一般刑事犯二人を釈放せよなどと要求。福田赳夫首相は「人の命は地球より重い」とこれを呑んだ。この頃国際世論は強硬策を支持する傾向にあり、日本は激しい批判をあびた。

日韓癒着問題

円借款にからみ、韓国がソウル地下鉄の車両を日本商社から買い入れた際、朴政権と日本の政界に多額のリベートが渡ったとされる事件。三菱商事・丸紅・三井物産・日商岩井が輸出価格を水増しし、そのうち一〇〇万〜二〇〇万ドルが日本に還流、政界に渡ったとされた。衆院予算委員会で関係者が一部事実を認めたが、疑惑は解明されなかった。

週刊YEAR BOOK/日録20世紀 1977

CONTENTS

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター 山口至剛
表紙デザイン 山口至剛デザイン室+渡邊裕
本文レイアウト デザインオフィス八起き
編集協力 (有)エービーシープレス (株)カマル社 (株)コミュニケーションハウス・ケースリー シド・プロ (有)マックス (有)マライカ 小原伸夫 鍵和田良輔 小松邦宏 佐野長成 張替政展 藤森雅弘 結城順一 吉田忠正

●写真協力
岩井かずみ 岡崎豪 奥村健太郎 鈴木嘉和 瀬霜真由美 松本次史 松本零士 矢野道彦 朝日新聞社 共同通信社 CORBIS・BETTMANN ANN キーストン サンテレフォト 時事通信社 新華社 日刊スポーツ 日本経済新聞社 PPS 報知新聞社 報知PRセンター フォトサービス 毎日新聞社 マガジンハウス 読売新聞社 ロイター WWP 松竹 東宝 日本コロムビア 富士通ゼネラル ポリドール 宇宙開発事業団 映画文化協会 えとせとらレコード博物館 近代映画協会 全日本柔道連盟 (社)日本腎臓移植ネットワーク